

薬学の未来をつくる

京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

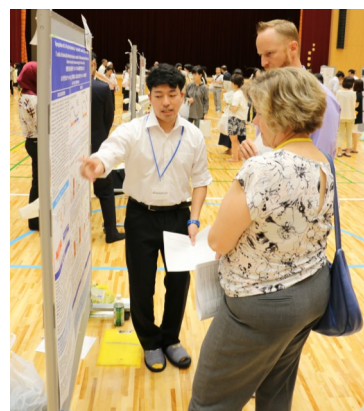
No. 187 Oct. 2016

2016年度 総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催

教務課



発表会の様子



意見交換の様子



“The Get-Together Party”の様子

2016年6月21日（火）・22日（水）の2日間にわたり、6年次生の卒業論文発表会を創立130周年記念館にて開催しました。グローバル人材育成の一環として、全員が英語でのポスター作成・発表・質疑応答を行いました。6年次生は、海外学術交流協定校（タイ・エジプト・台湾・米国）からの招待者（6校23名）、外国人留学生、大学院生等と活発な意見交換を繰り広げ、活気あふれる発表会となりました。

CONTENTS

■ 特集

医大研修プログラムに参加して 4

■ コラム

卒業生からのメッセージ 15
学生相談室だより 27
私の薦める、私の一冊 31

■ 報告

2017年度、2016年度大学院入学選考結果 2
MCPHS大学に留学して 8
シンガポール免疫学研究所での研究留学生生活 12
第8回学生満足度調査集計結果 13
第101回薬剤師国家試験の結果について 16
2016年度京都薬科大学給付型奨学生決定・表彰 18
2016年度京都薬科大学遠隔地出身学生給付型奨学生決定 19
熊本地震の被災者への支援について 24
大学院トピックス 25
受賞 30
京都薬科大学奨学金寄附金芳名録 32

■ ご挨拶

ご挨拶 3

■ イベント

2016年度総合薬学研究・総合薬学演習卒業論文発表会開催 1
2016年6月、8月にオープンキャンパスを開催しました 20
臨床薬学研究者養成セミナーが開催されました 22
第4回KPU-OHP臨床医薬カンファレンスが開催されました 22
理科実験講座「身近な夏の不思議体験2016イン山科」 23
京都市東部文化会館にて、生薬標本の一般公開をしました 24
第10回自治会執行部主催七夕企画 24
日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加して 26

■ お知らせ

学生総合保障制度引受幹事会社移転のご案内 11
Library News 11
第14回文化講演会のお知らせ 22
生涯教育センターからのお知らせ 28
クラブだより 29
2016年度学位記授与式（前期）及び大学院秋季入学式 29
人事異動 29
京薬会だより 32

発表会では、特に活発な発表を行った学生約50名に、海外学術交流協定校の先生方から発表会終了後に開催する“The Get-Together Party”への招待状が授与され、パーティーで親交を深めることとなりました。



招待者と本学教員

〈スケジュール〉

	日時	系	分野
6月21日	第1部	創薬科学	薬化学、薬品製造学、薬品化学、生薬学
	13:30～14:10		
	14:10～14:50	分析薬科学	薬品分析学、代謝分析学、薬品物理化学
	15:10～15:50		
	15:50～16:30	生命薬科学	衛生化学、公衆衛生学、微生物・感染制御学 細胞生物学、生化学、病態生理学
	16:50～17:30		
	17:30～18:10		

6月22日	第1部	病態薬科学	病態生化学、薬物治療学、臨床薬理学 薬理学、臨床腫瘍学
	13:30～14:10		
	14:10～14:50	医療薬科学	薬剤学、薬物動態学、臨床薬学
	15:10～15:50		
	15:50～16:30	基礎科学	健康科学、物理学、薬学英语
		薬学教育	臨床薬学教育研究センター、情報処理教育研究センター
		附属施設	薬用植物園

※全て40分交代とする

2017年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、薬科学専攻博士前期課程、 2016年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学） 及び薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の入学選考結果

Report

入試課

2017年度大学院薬学専攻博士課程（夏季募集）、2017年度大学院薬科学専攻博士前期課程、2016年度大学院薬学専攻博士課程（秋季入学）、2016年度大学院薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）の入学選考を8月22日（月）に実施し、8月29日（月）に合格発表を行いました。入学選考の結果は各表の通りです。

○2017年度薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	10名
受験者数	10名
合格者数	10名

○2016年度薬学専攻博士課程（秋季入学）

志願者数	3名
受験者数	3名
合格者数	3名

○2017年度薬科学専攻博士前期課程

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	0名

○2016年度薬科学専攻博士後期課程（秋季入学）

志願者数	1名
受験者数	1名
合格者数	1名

新任のご挨拶



医療薬科学系
薬剤学分野

くさもり こうすけ
助教 草森 浩輔

2016年7月1日付で薬剤学分野の助教に着任致しました。私は2008年に本学薬学科を卒業後、山本 昌教授（薬剤学分野）のご指導の下、博士前期課程を修了致しました。その後、京都大学大学院薬学研究科へと進学し、高倉喜信教授（病態情報薬学分野）のご指導の下、2013年に博士後期課程を修了し、学位を取得致しました。学位取得後、2013年に本学薬剤

学分野の特任助教として着任し、2016年3月まで本学の教育及び研究に携わり、同年6月まで本学の博士研究員として研究に励みました。

特任助教として着任してから現在に至るまで、間葉系幹細胞を利用した疾患治療法の開発や自殺遺伝子を応用した細胞増殖制御法の確立など細胞製剤に関する研究に従事しつつ、「薬剤学実習」や「薬剤学B」の講義の一部などを担当致しました。今後、本学の発展に寄与できるよう、教育及び研究において精一杯尽力したいと考えております。職員の皆様方には大変お世話になりますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



事務局
研究・産学連携推進室

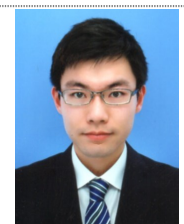
たけの かおる
室長 武野 薫

2016年7月1日付で研究・産学連携推進室長に着任いたしました。私は本学を卒業後、製薬企業にて、主に知的財産の面から研究開発を支える業務に従事してまいりました。本学で薬学の基礎を学ばせていただいたことにより企業での業務を遂行できたのであり、さらに企業での経験を本学で活かす機会をい

ただけたことに、深く感謝いたしております。

昨今、大学にはその研究成果をもって社会貢献することが求められております。特に、医薬品の創製や適正使用に関する薬学研究については、大学の研究力への期待がオープンイノベーション推進という形で顕在化されており、それに応えていける研究力を有する本学への期待も大きいと考えております。

私は、本学が研究活動を通じて社会貢献を果たし、社会から適切な評価をしていただくことによりさらに発展していけるよう、尽力して参る所存でございます。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務局
庶務課

こじま ゆうすけ
事務員 小嶋 裕介

2016年7月1日付で入職し、事務局庶務課に配属となりました小嶋と申します。

私は愛知県出身で、平成22年に同志社大学社会学部を卒業し、これまで愛知県内の自治体で公務員として勤務してまいりました。

職務では、「事務」という面で自治体の職務と共

通点も多いことから共感を覚えつつも、これまで「薬学」というフィールドに携わった経験がないことから、新たな知識を吸収する面白さも共に感じながら日々職務に取り組んでおります。

愛学館7階の事務室カウンターの近くにて在席しておりますので、何かありましたらお気軽にお越しいただければ幸いです。

自身のこれまでの経験を活かしながら、初心を忘れることなく日々精進し、本学の発展に少しでも貢献できるように尽力していく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

医大研修プログラムに参加して



昨年度、医大研修プログラムに参加した7名の学生（当時5年次生）から報告が寄せられましたので特集記事として紹介いたします。

本プログラムは、「総合薬学研究C」という科目で開講され、「薬学・医療に関する高度な専門知識と研究能力を兼ね備えた、幅広い分野で社会的ニーズに即応できる人材を育成すること」を授業の一般目標としています。本学は「研究活動」に力を入れていることもあり、このような授業を開講しています。参加学生の報告からは、本学とは環境の異なる京都府立医科大学又は滋賀医科大学における臨床講座又は基礎研究教室での研究活動を通して、種々の不安や困難を克服しながら、「科学的根拠に基づいた問題解決能力」、「新たな研究手法」、「情報収集能力」、「プレゼンテーション能力」（いずれも授業の「到達目標」）などの獲得に努力した結果、一回りも二回りも成長された様子が窺えます。

本特集が、これから「医大研修プログラム」受講を考えている学生の皆さんのモチベーションアップにつながることを期待しています。

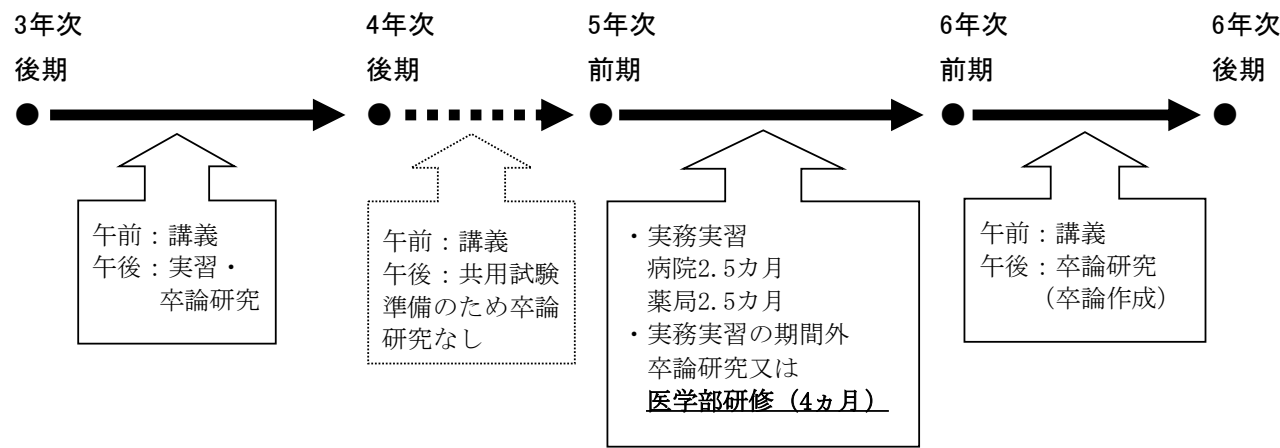
KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

教務課

医大研修プログラムは、卒論研究を3年次後期より約1年間所属分野で行ってきた熱意のある学生が、医療の最前線である研究室等で貴重な研究や体験を積み重ねることにより、医療チームの一員として医療研究に貢献できる有能な人材を育成することを目的

とし、2010年度5年次生からスタートしました。希望者は滋賀医科大学又は京都府立医科大学で4ヶ月間の研修を行います。研修の成果については、総合薬学研究の一部として単位認定し、卒業論文テーマとすることも可能となっています。



【スケジュール】

4年次	2014年9～10月	ガイダンスの開催
	2014年10月中旬	事前調査票の提出
	2014年10月下旬	研修希望学生と教務部長との面談
	2014年11月上旬	志望届の提出
	2014年11月～	研修希望者と研修先指導教員との面接
	2015年1～3月	受入可否決定 研修先指導教員との打合せ
5年次	I 期2015年5月・II 期2015年8月・III 期2015年12月	研修開始
	I 期2015年8月・II 期2015年11月・III 期2016年3月	レポート提出（研修修了後）

あさい まゆり
■ 6年次生 浅井 麻佑里

私は2015年8月から11月までの4ヶ月間、京都府立医科大学の救急医療学教室にて研修をさせていただきました。5年次生では長期実務実習もありますがそれだけではなく、実際の医療現場のことをより深く知りたいという思いから、このプログラムに参加することに決めました。

この研修では主に救急室における診療や治療の見学、抗菌薬に関する臨床研究をさせていただきました。その他にも症例報告会や論文発表会、医学部生の講義などにも参加させていただきました。初めのうちは慣れないことばかりで不安や緊張でいっぱいでしたが、何もかもが初めてのことであり毎日学ぶことが多く、あっという間の4ヶ月間でした。

私はこの研修を通して医療者である以前に人として大切なことを多く学ばせて頂きました。救急医療の現場では生死に関わる危険な状態の患者さんから、軽症の患者さんまで多くの方が診療を受けに来

られます。その中でどのような患者さんに対して、人として正面から向き合っている先生方の姿がとても印象的でした。普段の生活背景や家族構成、退院後の生活など一人ひとりの患者さんと深く関わり、その人にとって最善の方法を考えると、医療を越えた患者さんとの関わりについても学ぶことが出来ました。もちろん、治療方針の決定や薬剤の選択についても多くのことを知ることが出来、とても勉強になりました。

臨床研究では抗菌薬に関する研究テーマを与えて頂き、患者さんのデータを収集する段階から始め、先生と相談しながら研究を進めていきました。最後には研究成果を医局の先生方の前で発表させて頂き、とても貴重な経験になりました。

今回の医大研修では大学とは全く違った環境で戸惑うこともありましたが、医局の先生方にも支えられ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。このような機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

■ 6年次生 磯野 真央

私は、4ヶ月間、京都府立医科大学の感染病態学教室での医大研修プログラムを通して様々なことを学びました。実験手法はもちろんのこと、医学部の授業や実習の雰囲気や体験させていただいたり、基礎研究に対する考え方、仕事としての研究者とはどういうことか教えていただくなど、医大研修に参加しなければ得られない経験を多くさせていただきました。

また、11月下旬に開催された日本ウイルス学会学術集会にも参加させていただきました。口頭発表は全て英語で行われたため、内容についていけないことの方が多かったのですが、発表の工夫や臨む姿勢など、感じ取れることは多くありました。さらに、飛び入りでウイルス研究者の交流会にも参加させていただきました。100人以上いたほとんどの方が全く知らない方たちでしたが、お酒を酌み交わしながら仲良くなり、次の日彼らの発表やポスターを見に行ったことはとてもいい思い出です。これからの進路として、大学院に進みウイルスの研究をしたいと考えている私にとって、このような繋がりができたことは大変嬉しく、緊張しながらも参加して本当に

よかったと思いました。

そして、研究を進めていくうちに、薬学的な観点から研究についてのアイディアの提案が一つできたことが、一葉学生としてとても嬉しかったです。薬剤師になるためだけと感じていた薬学的な知識は、基礎研究でも力を発揮し、決して無駄にはならないということ、身をもって実感し、勉強に対して前向きになれた気がします。また、そのアイディアが閃いたときの嬉しさは研究に対する意欲をも一層高めてくれました。

最初、単身で他大学の研究室（しかも自分が今までやってきた研究とは全く関連のないところ）に行くことにはやはり緊張しましたが、勇気を出してこの医大研修プログラムに参加して本当によかったと改めて感じています。医大研修で身に付けた知識、経験、考え方、人との繋がりを無駄にしないように活かしていきたいと思います。

最後になりますが、医大研修は京都薬科大学の特色だと思います。他大学の医学部の病棟・研究機関にふれるチャンスはこの先あるかわかりません。思い切って飛び出してみることをお勧めします。きっと自分にとってプラスになると思います。

■ 6年次生 稲垣 恵未

私は、京都府立医科大学附属病院の疼痛・緩和医療学講座において、4ヶ月間研修をさせていただきました。緩和医療に興味を持っていましたので、またとない機会だと思い、このプログラムに挑戦しようと

考えました。

研修においては、主に臨床研究をしました。後ろ向きカルテ調査により、化学療法に伴う末梢神経障害を有する患者において、抗うつ薬の効果に影響する因子を検討しました。臨床研究を行うのは初めてでしたが、先生方にたくさんアドバイスを頂き、何

とか一つの形にまとまりました。

しかし、ここに至るまで決して平坦な道のりではありませんでした。まず、研究テーマを決めるにあたり、目の前で行われている薬物治療から問題点を見出すことの難しさを実感しました。今回は、研修期間も限られていたため先生からテーマを頂きましたが、臨床研究を行うには、薬剤師としての知性や感性を養わなければいけないと思いました。

また、一つのことを成し遂げるには忍耐力と強い意志が必要であることを学びました。膨大なカルテ

情報の中から目的とするデータを抽出する際、何度も途中で投げ出したくなりました。しかし、抽出する情報の意味を考えたり、情報にある一定の傾向が認められるか推測したりすることで、単純作業と化していた調査に面白さを感じることができました。

今回、新たな環境のなか一から研究を行い、成果を挙げられたことは大きな自信に繋がりました。今後も薬剤師として探究心を持ち続けたいと思います。最後に、この研修でお世話になった先生方に深く感謝致します。

■ 6年次生 今井 綾香

私は4ヶ月間、京都府立医科大学の予防医学教室にお世話になりました。私はもともとがん研究に携わりたいと考えていたため、本学では臨床腫瘍学分野を選択し、3年次後期から研究に勤しんできました。

初めて医大研修プログラムの説明を聞いた時、「がん研究を新しい視点から見てみたい!」といい、がん予防について研究しておられる予防医学教室に興味を持ち希望致しました。

そしてトラメチニブという免疫療法の薬を開発された酒井教授のもとで勉強させて頂けるという環境に恵まれました。指導教員の先生からは実験手技について丁寧にご指導頂きました。継代培養一つとっても使用する器具が違うため、一から覚える作業は大変でしたが、1ヶ月半経った頃から独り立ちさせて頂き、自分ひとりで実験計画を立てて実験を進めていました。

私の取り組んだテーマは簡単に言いますと、「天然化合物から がん予防となりうるものを見つける」というものでした。そのために、天然化合物ライブラリー（143種類）を用いたスクリーニングを行いま

した。限られた時間の中で再現性の高い良いデータが出たことは貴重な経験と大きな自信になりました。結果に一喜一憂したこともありましたが、目標を立てて先生と一緒に悩みながらも前へと進み、目標を達成した際は嬉しかったです。研究の楽しさと研究者としての心構えを教わったような感じがします。

学部生は私一人だったので当初緊張していましたが、プログレスレポート、ジャーナルレポートや講演にも参加させて頂き、さまざまな人と関わろううちに徐々に緊張もほぐれ打ち解けることができました。新しい環境に飛び込んでいくことは新しい見方が増えるということです。今後の人生にとって糧になると思いますので医大研修を考えている人はチャレンジしてほしいと思います。

最後になりましたが、医大研修プログラムで学ぶ機会を与えてくださいました本学関係者の皆様、快く背中を押してくださった臨床腫瘍学分野の吉貴教授、中田准教授、飯居助教に深く感謝いたします。

また快く受け入れてくださった京都府立医科大学・予防医学教室の酒井教授をはじめとした皆様、大変お世話になり心より御礼申し上げます。

■ 6年次生 うえ 植 貴俊

私は今回の医大研修プログラムで、京都府立医科大学の細胞生理学教室で研究をさせていただきました。この教室では「細胞内のイオン濃度変化と癌細胞の増殖・遊走との関連」をテーマとしていただき実験をさせていただきました。私がこのプログラムを志望した理由は2つあります。1つ目は、将来薬剤師として臨床現場で働きたいと考えていたため、医師との交流を持ちたかったという点、2つ目は昔からイオンに対して関心があり、なおかつ3年次から自分の研究室で癌関係のテーマをすすめていたことから、癌とイオンの関係性に関連したテーマに興味を持っていた点です。

医大の研究室は、先生方と大学院生の方々のみで学部学生はいません。そのため研修先では、非常に

手厚く指導をしてくださり、研究に対する相談にも乗っていただけました。また、大学院生の方は実際に医師として働きながら基礎研究をしている方でしたので、私の志望理由通り医師から見た臨床現場のお話や薬剤部のことなどを聞くことができました。これまでの研究内容とは異なる部分が多く、新しい分野のため非常に多くの文献を読みました。また研修期間で結果を出すことができましたので、日本生理学会で学会発表をさせていただく機会もいただきました。

研究者としてだけでなく現場の薬剤師や企業でも重要なスキルとして挙げられる情報収集能力や英語の理解力、プレゼンテーションの能力は、このような研究室での日々の積み重ねを通して身に付けることができると私は考えています。医大研修プログラムは現場で働く医師とコミュニケーションを取る機

会を持つことができ、さらに上記のような能力の向上を短期間で行うことができるものであると考えています。現場で働こうと考えている方、研究職を考

えている方、まだ、将来どのような職種に就こうか迷っている方などみなさんにお勧めすることができる研修になっていると思います。

こやま
■ 6年次生 小山 菜々子

滋賀医科大学医学部附属病院の薬剤部にて、カルテ調査から自身の研究テーマに取り組むため、この医大研修プログラムを利用させていただきました。

実務実習を経験する前に1人で配属されてどう頑張れるのか不安と緊張感でいっぱいでしたが、研修室には大学の先輩である大学院生や1年目の先生方がいらっしやって、いつも気にかけてくださる方が傍にいてに助けられ、緊張感をやる気に変えて研究に臨めました。実際の電子カルテに初めて触れて、情報量の多さに驚き、どうやって効率的に収集するかが難しかった部分ではありました。データを取ってきてもらうのではなく自身でカルテ調査することで、根気や考える力が養われたと感じています。

また、緩和ケアに関わる研究をしていることから、週1回緩和ケアチームのカンファレンスに参加させていただきました。カンファレンスでは、医師、

薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなどが患者情報を共有し、それぞれの専門的観点から感じることを意見し合う多職種連携の姿を間近に見て、患者の命と向かい合う責任感の強さや患者家族全体を知ることの大切さを学びました。将来の薬剤師像がより明確になり、専門性を深めてチーム医療に貢献したいという意識が高まりました。

4ヶ月間の研修は長いイメージするかもしれませんが、1週間ごとにやるべき目標を決めて地道に努力することで、ギュッと内容の濃いものになると思います。そばにはいつも、熱心に研究に取り組む大学院生や、相談に乗って下さる先生方がいらっしやるので、後輩の皆さんにも安心して挑戦してみたいです。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えてくださった薬剤部長の寺田先生、研究室の矢野先生、松村先生をはじめ、お世話になった方々に厚くお礼申し上げます。

てい
■ 6年次生 出井 小百合

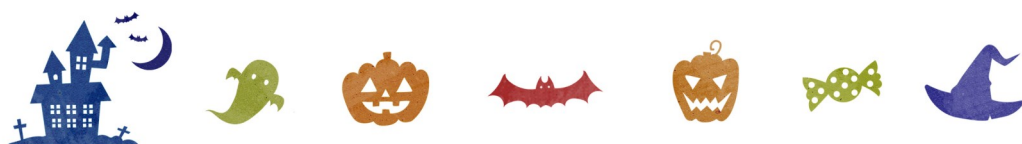
私は約4ヶ月間、京都府立医科大学の法医学教室（池谷博教授）において研修をさせていただきました。医大研修については研究室の先輩から伺っており、興味を持っていたので一年前から参加しようと決めていました。私が法医学教室を選んだ理由は法医学者である上野正彦先生の本を読み、法医学に興味を持ったからです。

私が法医学教室で取り組んでいた実験テーマは「危険ドラッグ25B-NBOMeの死後再分布の検討」です。25B-NBOMeは若者を中心に世界で流行したフェネチルアミン系の薬剤で、少量で幻覚作用を発現することが知られています。しかし毒性や致死量についての詳細な情報は限られています。この薬剤による中毒死例において、死後に入院時と比較して血中薬物濃度が上昇していたことから、この原因を死後再

分布によるものとの仮説を立てました。そこで実験ではラットを用いて、25B-NBOMeの体内分布を調査し、心臓血の25B-NBOMe濃度が再分布により死後上昇するのかを検証することにしました。結果は25B-NBOMeは死後一過性に心内血中濃度が上昇することが確認され、上述の中毒死例で観察された現象が再現されました。

医大研修に参加するには不安もありましたが、実際に参加させて頂いて本当に多くのことを学ばせていただきました。この経験をこれから薬剤師として働いていく上で生かしていきたいと考えております。

お世話になった京都府立医科大学法医学教室の池谷教授と教室の先生方、ならびに医大研修プログラムで学ぶ機会を与えてくださいました本学関係者の皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。



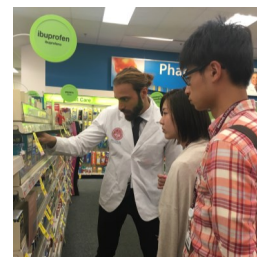
2016年8月4日から18日まで、昨年度から始まった米国のMCPHS (Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences) Universityへの短期研修に12名の学生が参加し、3名の職員が引率しました。午前是一般英語の授業、午後はアカデミックプログラム (全てMCPHS大学の先生によって英語で行われる) が実施されました。移動および週末を除く8日間の研修期間でしたが、①Dana Farber Cancer InstituteおよびBrigham and Women's Hospital (in Harvard Medical Area) の薬剤部見学、②St. Vincent Hospital (in Worcester) 見学、③コミュニティーファーマシーの調剤室見学、④コミュニティーファーマシーにてOTC薬について学ぶ、⑤MCPHS大学内模擬薬局にて処方解析実習およびMCPHS大学6年生とロールプレイング、⑥調剤実習 (カプセル剤作製)、⑦メディシナルケミストリーに関する講義 (2コマ)、⑧米国の薬剤師業務および薬学のカリキュラムについて (2コマ)、⑨プレゼンテーション2回 (at Boston and Worcester Campus)、⑩MCPHS大学研究室見学およびキャンパスツアー、⑪MCPHS大学の教職員・学生や他国からの留学生との交流会 (5回程度) 等が実施されました。今後この経験を生かして勉学に励まれることを期待しています。



Prof. Kerrに有機化学の質問



MCPHS大学の皆さんと



薬局で、OTC薬の説明をMCPHS大学の6年生から受けている様子

■ 3年次生 奥田 葵

毎日が刺激的で充実した実りある2週間でした。英語や薬学の勉強だけでなく、ボストンの町並みや新たな文化に触れながら過ごしていくことで、様々な人と出会うことができました。また常に周りに英語のある環境にすることで、私自身の学ぶ姿勢がかなり変わりました。控えめで口数の少ない私が、講義のとき自分から一番前の席に座り発言することや、どこかに見学に行った際にはガイドのすぐ後ろにつ

いてお話ししたり質問したりすること、現地の学生と時間いっぱいまで楽しく会話できることだけでも大きいことだったと思います。

プログラムを通して、自分はまだまだ勉強不足だと痛感させられました。貴重な経験を糧に、これからより一層勉学に励みたいと思います。引率して下さった中村先生、天ヶ瀬先生、佐々木さん、2週間共に過ごした仲間、プログラムを支えて下さった方々、家族に感謝します。本当にありがとうございました。

■ 3年次生 多田 真綾

薬科大学で勉強をしていると、狭い世界で生きているような感覚に陥って寂しさを感じることがありました。他大学の友人達が留学をして海外に友人ができ、英語を話せるようになっていくのを見て羨ましく思っていました。留学に参加した目的は語学力の向上でしたが、当初予想していなかった大きな収穫がありました。それは、今自分が学んでいることは国際的に通用する知識だと気付けたことです。英

語で講義を受け、アメリカや韓国等の人とたくさん話をするにより、国によって違う言葉を使っているけれど薬学は世界共通なのだと実感することができました。自分は本当は広い世界にいたのだと思って嬉しくなりました。

今回の留学は、英語を使う機会を得たことに加え、薬学の勉強の意欲向上につながる大変有意義なものとなりました。このような機会を作ってくださった先生方をはじめ、たくさんの方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

■ 2年次生 宇野 莉央

2週間という短い期間でしたがアメリカでの生活はとても充実していました。出発前は英語が聞き取れるのか、英語での説明が理解できるのか、私の英語

がどれくらい通じるのか、など不安なことがたくさんありました。でも実際はたくさんの人との出会いや発見があり英語での生活を楽しむことが出来ました。

Worcesterキャンパスを訪れ現地の学生に薬局内を

説明してもらったことが一番印象に残っています。アメリカのOTCは先発薬とジェネリックが隣り合わせに並べられていたり、値段の高い薬は箱に入れられて陳列されていたりと日本とは違うことが多かったです。説明して下さった学生はたくさんの知識を

もっていて1つ尋ねるとその何倍もの答えを返して下さり、私も日本のことについてもっと興味を持ち知識を増やさなくてはいけないと思いました。アメリカの医療機関の様子を直接目で見て肌で触れ感じることができ、貴重な経験になりました。

くらつ ゆ み こ

■ 2年次生 倉津 佑実子

日本に帰って来てまず初めに思ったことは、もっと英語を勉強したいということでした。他国の学生と話をするとき、買い物をするとき、授業中に先生に質問をするときなど、自分の話す英語が相手に伝わった瞬間、世界が一気に広がるのを感じたからです。そして中国や韓国の学生が薬学について英語で流暢に話しているのを間近で見て、私もこの土俵に立ちたいと思いました。

また、留学中は授業を受けた後、毎日時間を惜しんで観光に出かけました。ボストンの歴史ある街並みを見たり感じたりすることは驚きと感動の連続でした。沢山の英語に触れて、沢山の新しい発見があつて、毎日クタクタでしたが、達成感でいっぱいでした。今回の経験を活かして、他国の学生と対等に渡り合えるようように、英語にも薬学の勉強にも励んでいきたいと思います。ありがとうございました。

■ 2年次生 坂口 雅弥

アメリカに行って薬剤師の違いを目の当たりにした。アメリカの薬剤師は、プロトコールに則り疑義照会を経ずに注射や処方箋の修正ができ、テクニシャンと仕事を分担しているため余裕があった。アメリカの薬剤師は仕事に誇りを持ち、その見返りも貰い、病院内でも地位が高い。また治療費が高いため入院患者、通院患者ともに数が少ない。アメリカ

を手本にして良いところは吸収していけば、日本できっとよりよいものをつくれるに違いない。他には、日本ではまだやったことのないことを、初めてアメリカでたくさん経験した。その中で一番記憶に残っているのは処方箋を作って服薬指導をするシミュレーションだ。処方箋を作る手順、実際に患者に何を伝えればいいのか考えるいい機会だった。今後自分が職場に立った時、アメリカで得た経験を生かせるのだと考えると、未来が楽しみになった。

■ 2年次生 清水 勝

私は今まで一度も海外に行ったことがなく、今回のこの短期留学制度を使って海外に行くのが初めての海外渡航でした。始めは初めての地に行くことへのドキドキと、ほとんど英語を話すことができないことへの不安でいっぱいでした。しかし、実際はMCPHS大学の先生方や、現地の人達は私が想像していたよりも親切に接して下さったので、自分の英語力の不安は一瞬で吹き飛びました。また、引率の先生方が何もわからない私達をボストンの色々な所に

連れて行って下さったのでとても充実した14日間を過ごすことができました。私の中で一番思い出に残っていることは、ボストンレッドソックスの本拠地であるフェンウェイパークでレッドソックスの試合を観たことです。私自身が野球サークルで野球をしているので、本場の野球を観ることができて感激しました。今回のMCPHS大学への留学の中で知らないことやわからないことをたくさん発見することができ、自分の至らなさを痛感することができました。これからは今回の留学のことを生かして色々なことに挑戦していきたいと思います。

■ 2年次生 中野 友絵

私は、留学に行つてとてもよかったと思う。印象に残っていることが3つある。1つ目は、ボストンでの授業を受けて、自分自身が日本の医療や薬のことについてあまり知識がないことに気づいた。授業ではボストンのことについてたくさん学ぶことができたが、日本のことを聞かれた際に詳しく答えることができなかった。これを機にもっと勉強しようと思った。2つ目は、英語を英語で説明するということは難しいということである。日本の英語の授業では

聞かれたことを日本語で答えるだけだった。しかし、アメリカでは聞かれた英単語の意味は英語で答えてはいけないし、意味がわからなくて質問した英単語も英語で説明される。これによって日本語と英語のニュアンスの違いを感じることなく、本来のニュアンスで語彙を増やすことができた。最後に、現地の色々な人と交流したり2週間過ごした仲間ととても仲良くなることができた。勉強という本来の目的に加えて、観光に行ったり、ボストンでの生活をしっかり満喫することができた。とても意味のある留学だった。

■ 2年次生 太田 千佳子

この留学プログラムに参加しようと思ったのは自分の英語のレベルを試したいと思ったのがきっかけでした。英語での授業や現地でのコミュニケーションを通して感じた、伝わる喜びと言葉にできないもどかしさは今後の英語学習の糧になりました。病院見学や薬局見学では、話してもらうこと全部を理解することはできませんでしたが、見聞きするものす

べてが新鮮でした。それと同時に日本ではどのようなになっているのかと疑問に思うことも多く、日本の薬学のことをもっと知りたい、勉強していかないといけないと思うようになりました。

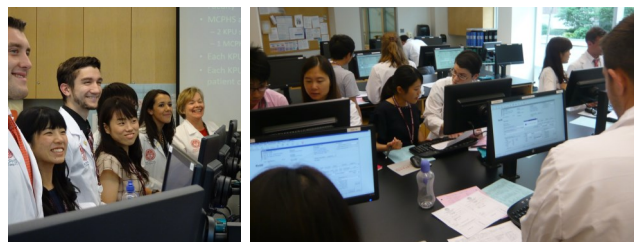
最後になりましたが、引率して下さった3人の先生方や今回の留学に関わって下さった方々に感謝致します。また協力しあいながら過ごした11人の留学メンバーにも感謝します。この留学で得た糧を将来に活かせるように努力していきます。

■ 2年次生 西口 大生

英語にも自信が無かったので出発前は不安でいっぱいでした。でも、英語は全部が分からなくても、分かる単語を拾っていくようにすると、徐々にコミュニケーションがとれるようになり、楽しくなりました。授業では米国の薬学事情や医療に関することを学びました。病院見学や薬局見学ではたくさんの発見がありました。1つだけ挙げれば、米国ではシートタイプの薬は病院でしか使われず、薬局では

使われないことなどです。休みの日や平日でも授業が終わればフリーダムトレイルを歩いたり、ケンブリッジに繰り出してショッピングをしました。ボストンの街並みはとても美しく、そこで過ごすだけで特別な気持ちになれました。

今回の留学では薬学に関する興味が大いに刺激され、とてもよい経験ができました。引率とともにいろいろと企画してくださった先生方には感謝してもしきれません。今回の経験をこれからの学業に生かしたいと思います。



模擬薬局でMCPHSの6年生と一緒に実習を受けている様子



Prof. Kerrのプール付き豪邸で

■ 2年次生 福井 真優

アメリカに行くのは初めてで、英語が通じるか不安でしたが、アメリカに着いてみると、見るもの、食べるもの、聞こえてくる英語のシャワーなど興味深いものが多く、不安が楽しみに変わりました。私達が滞在した地区は、ハーバード大学の医学大学院、アメリカ国内屈指の大病院、世界トップレベルの製薬企業の研究施設などが所狭しと立ち並んでいて、薬剤師を志す私達にとっては、ただ歩いて回る

だけでもわくわくする街でした。平日は盛り沢山のプログラムが全て英語で行われ、自分の英語力のなさを感じることもありましたが、ゆっくり話してもらったり一生懸命聞いてもらったりしたのが嬉しかったです。土日は教授のプール付きの豪邸でのパーティーに参加させてもらったり、野球観戦を楽しんだり、アメリカの文化に触れてリラックスできました。最後になりますが、引率の先生方をはじめ、留学に関わって下さった方々には心から感謝しています。ありがとうございました。

■ 2年次生 堀田 真帆

この度、MCPHS大学に短期留学した。初めての海外渡航であり、多少の不安はあったが、先生方の厚いご指導のもと大変充実したものとなった。

主に午前は授業、午後は病院見学や観光といった密なプログラムとなっており、新しい発見の連続であった。その中で幾度となく立ちはだかる言語の壁。時に何とも言い難いもどかしさに襲われたが、その壁を越えた時の感動と喜びは何事にも代えがたいものであった。韓国人、中国人留学生との交流

会、MCPHS大学の学生との服薬指導実習では英語を介して互いの文化や医療制度などについて話しあい、視野を大きく広げることができた。

この留学により、留学をやり遂げたという自信を得たと同時に、国境を越えさらにたくさんの人々と交流をもちたいと強く感じた。日々勉学に励み、得た知識を日本にとどまらず、直接間接問わず世界に生かせるよう努力していきたい。

最後になりましたが、今回の留学にあたり大変お世話になりました天ヶ瀬先生、中村先生、国際交流推進室の佐々木さんに厚く御礼を申し上げます。

き え
■ 2年次生 吉岡 希恵

この留学で言葉にすることができないほど素晴らしい経験をさせていただきました。英語で授業を受けることは新鮮で毎日どんなことをするのかと楽しみでした。特に有機化学の授業では、それまでに勉強したものと繋がり、先生の質問に対しても答えることができとても面白かったです。調剤や服薬指導を体験する授業では一人一人に丁寧に指導していただき、アメリカの処方箋の内容やデータの管理方法

を知り、とても勉強になりました。どの授業でも慣れてくると自ら質問できるようになり疑問を解決できたときは成長が実感できた瞬間でした。またアメリカの病院を訪問した際には日本との違いに驚かされるばかりでした。設備が素晴らしく、テクニシャンと薬剤師の役割分担を初めて見学することができ薬剤師としての仕事の重要さを実感しました。

アメリカで過ごした1秒1秒が勉強になり私にとって大きな財産となりました。この機会を設けてくださった方々に感謝しています。



MCPHS大学の先生と学生の前でプレゼンテーション



修了証をもらいました（中央は英語の先生）



MCPHSの先生と学生さんと一緒にディスカッション

News 学生総合保障制度（こども総合保険）引受幹事会社移転のご案内

学生課

平成28年7月25日（月）にAIU損害保険株式会社事業所が移転しましたので、下記のとおりにご案内いたします。

■引受幹事会社：AIU損害保険株式会社 大阪第二支店 営業三課

移転後住所：〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB 35階

TEL：06-7223-2021 FAX：06-6375-7119（受付時間 9：00～17：00 土・日・祝日・年末年始を除く）

※事故受付フリーダイヤルの変更はございません（0120-300-399）

■取扱代理店：近電商事株式会社

住所：〒541-0048 大阪市中央区瓦町4丁目2番14号瓦町ビル3階

TEL：06-6233-5951 FAX：06-6233-5956

Library News

開館日程

図書館

2016年 10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2016年 11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2016年 12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8:30-21:00

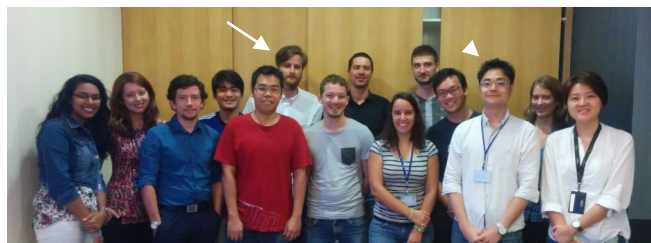
10:00-17:00

休館

休館=館内整備

国境の無効化というグローバル化が否応なく進む中、必要に応じ必要な場所で仕事をすることは今後ますます必要になるであろう。東南アジア諸国を巻き込んで経済発展がとどまらないシンガポールはそれをまさに肌で感じさせてくれた。

私は、Agency for Science, Technology and Research (A*STAR: シンガポール科学技術研究庁)、Singapore Immunology Network (SIgN: シンガポール免疫学研究所)の主任研究員Prof. Florent Ginhoux研究室 (FG Lab) に留学を決めた。私の学ぶべきことがそこにはあった。留学前に京都薬科大学において諸先生方ならびに学生諸子と発展させてきた私の研究は、「脳の免疫担当細胞ミクログリアを用いてアルツハイマー病の細胞治療法を開発する」というものであり、この研究を次のステージに進めるためである。



FG Labメンバー：ラボミーティングにて
↑: Dr. Ginhoux、△: 筆者

1919年にミクログリアがピオ・デル・リオ-オルテガにより発見されて以来、この細胞の「起源」は謎に包まれていた。この命題に明快な答えを示したのがProf. Ginhouxであり、その起源が胎生期に発生する初期発生マクロファージで、出生前に脳に移行した後は生涯に渡って生着し続けることを2010年に論文発表した。2014年1月に彼と日本で面会する機会を得た時、彼は私に、この初期発生マクロファージを独自の方法でiPS細胞から作製できるというデータを見せてくれた。私は、即、留学したい旨を伝え、彼の快諾を得た。

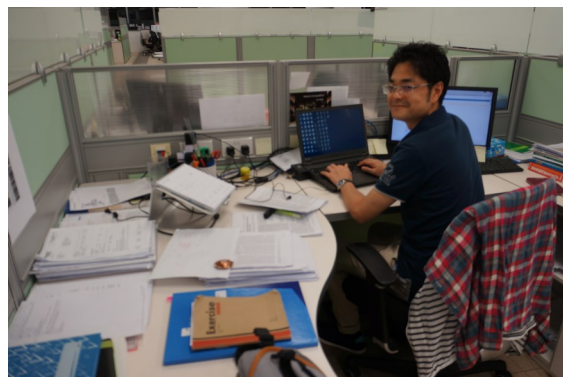
2014年5月から2016年3月まで、私は客員研究員としてFG Labに在籍し、iPS細胞由来初期発生マクロファージの、ミクログリアだけではない様々な組織マクロファージへの前駆細胞としての可能性を探る研究に没頭した。アジアと世界を結ぶハブとして発展してきたシンガポールだけあって、SIgNは25カ国から約200人の科学者が所属する研究所であり、FG Labも7カ国におよぶ国際色豊かな構成メンバーであった。生活習慣ならびに価値観も多様な中で学ぶことも多々あったが、日本の美徳感やマナーは世界に誇れるもので、日本の教育の素晴らしさを実感した。一方、典型的日本人の一人として苦手意識が強い英語力に関しては、独特のアクセントがあるがと

病態生理学分野 准教授 高田 和幸

てもカジュアルな英語であるシングリッシュ（実質的なシンガポールの公用語）に助けられた。いまでも私の大好きな言語である。しかし、一刻も早く、英語でディベートできるレベルまで英語力を培う教育制度の必要性も強く感じた。

「なぜシンガポールに留学したのか？」科学的な必然性から始まった留学であったが、振り返ってみて、アジアの一員として日本を認識できたことは、私にとって大きかった。シンガポールは、優秀な外国人を自国に優遇することでグローバル化にいち早く対応し、自国の発展を遂げている。おそらく都市国家規模で可能な効率の良い政策であろう。また、教育面でも飛躍的に発展し、アジアのトップであることも間違いない。しかし、招き入れた外国人と国民が、対等に渡り合いながらこの発展を維持してゆくにはまだ時間を要するように感じた。それともグローバル化の中では相対性という概念は存在せず、外国人と国民との区切りすらナンセンスなのかもしれない。しかし私は、日本は軸をしっかりと自国に置き、戦略的なインターナショナル化を進める必要があると考える。国内外関係なく、どのような道に進もうとも、京都薬科大学出身者として帰属意識を持ち、進んだ先（組織）で柔軟に適応し活躍できる、そんな多様性を持った初期発生マクロファージのような人財の育成のために、これからもサイエンスという種を播き続けようと思う。

最後になりましたが、6年制薬学教育が大きな変動を遂げる中、私の留学をお許しいただいた京都薬科大学および全教職員の皆さまに深く感謝申し上げます。特に、帰国の度に時間を割いて面会していただいた武田理事長、食中毒を起こした時にシンガポールにまで励ましの電話をくださった乾前学長、渡星前から帰国後に渡って様々なご指導をいただいた後藤現学長、そして私が抜ける中、必死で分野を切り盛りいただいた芦原教授をはじめスタッフのみなさま、遠隔からのメールでのやり取りで不自由をかけた学生諸子、また、日本から全力で支えてくれた家族に、深く御礼申し上げます。



SIgNでの私のデスク

第8回学生満足度調査集計結果

Report

学生満足度調査プロジェクトチーム

本学では、2009年度から、2～6年次生を対象とした「学生満足度調査」を実施しています。2016年度の調査では1,227名の学生の皆さんに協力をいただき、回収率は67.4%と昨年度に引き続き高い回収率となりました。学生の皆さんから寄せられた声は、本学の全職員で共有し、今後の教育・研究・施設設備等の改善に役立てていきたいと考えています。

なお、アンケート結果から改善が必要と判断された項目につきましては、本学の中期計画等に盛り込み、全学的な取り組みとして改善に努めます。改善結果は追って報告します。

<学生満足度調査の実施概要>

- | | |
|--|--|
| (1) 実施対象
学部2～6年次生 | (4) アンケート回収方法
回答後、係員により即時回収
即時回収が不可の場合は、4月28日（木）までに、
学生課設置の回収箱へ投函 |
| (2) 回答方式
無記名方式・学年ごとにアンケート項目を設定 | (5) 回収率
67.4%（前年：59.9%、+7.5ポイント） |
| (3) アンケート実施日程
2016年4月6日（水）～4月11日（月）
※各学年の「履修ガイダンス」時に実施 | |

<学生満足度調査結果>

(1) はじめに

①性別

回 答	2016年度		2015年度		2014年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	339	27.6%	322	28.6%	81	20.6%
女性	851	69.4%	794	70.5%	310	78.7%
無回答	37	3.0%	11	1.0%	3	0.8%
計	1227	100.0%	1127	100.1%	394	100.0%

②学年

回答	2016年度		2015年度		2014年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
2年次	237	19.3%	208	18.5%	102	25.9%
3年次	238	19.4%	218	19.3%	84	21.3%
4年次	201	16.4%	125	11.1%	84	21.3%
5年次	288	23.5%	322	28.6%	79	20.1%
6年次	263	21.4%	245	21.7%	42	10.7%
無回答	0	0.0%	9	0.8%	3	0.8%
計	1227	100.0%	1127	100.0%	394	100.0%

(2) 京都薬科大学の魅力（複数回答可）

回答	2016年度		2015年度		2014年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
伝統があり、多くの卒業生を輩出している	773	29.4%	721	28.4%	253	27.4%
学力水準が高く、知名度が高い	414	15.8%	442	17.4%	143	15.5%
高い研究力	118	4.5%	117	4.6%	36	3.9%
最先端の薬学教育を受けることができる	59	2.2%	65	2.6%	33	3.6%
施設や設備が充実している	285	10.9%	234	9.2%	106	11.5%
高い就職率	383	14.6%	359	14.1%	143	15.5%
立地条件が良い	292	11.1%	308	12.1%	103	11.2%
京都の街	249	9.5%	246	9.7%	87	9.4%
その他(下記自由記述欄に記入して下さい)	18	0.7%	16	0.6%	7	0.8%
無回答	34	1.3%	30	1.2%	11	1.2%
計	2625	100.0%	2538	100.0%	922	100.0%

(3) 京都薬科大学の教育・研究 (※は4年次生以上への質問項目)

質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2016年度 平均点	2015年度 平均点	2014年度 平均点
シラバスには必要な情報が十分盛り込まれている	336	816	45	7	23	1227	3.2	3.1	3.2
教養科目(人と文化)は充実している	129	626	128	28	28	939	2.9	2.9	2.8
基礎演習の内容は充実している	113	328	42	5	12	500	3.1	3.0	3.1
早期体験学習のプログラムは充実している	113	327	45	5	10	500	3.1	3.0	3.1
英語科目は充実している	102	564	197	48	28	939	2.8	2.7	-
選択外国語科目は充実している	110	295	50	9	11	475	3.1	2.8	-
授業以外の学習支援体制(オフィスアワー・学びコンシェルジュ)は充実している	160	856	155	23	33	1227	3.0	2.9	-
専門科目は充実している	353	797	45	6	26	1227	3.2	3.2	-
専門科目実習は充実している	270	633	57	6	24	990	3.2	3.2	-
海外留学プログラムに参加してみたい	279	602	178	137	31	1227	2.9	2.8	-
総合薬学研究・演習を通して専門性を深められていると感じる ※	178	469	71	18	16	752	3.1	3.2	3.2
総合薬学研究・演習の定員は適切である ※	133	458	104	38	19	752	2.9	2.9	2.9
病院・薬局実習は充実している ※	110	129	16	4	4	263	3.3	3.1	-

(4) 京都薬科大学の学生サポート

質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2016年度 平均点	2015年度 平均点	2014年度 平均点
学生に対する各窓口での対応は親切・丁寧に行われている	453	641	88	20	25	1227	3.3	3.2	3.2
クラブ活動を行うのに十分な設備が整っている	106	255	84	18	12	475	3.0	2.7	2.7
奨学金制度は充実している	205	749	173	45	55	1227	3.0	2.8	2.9
困ったとき、悩んだときは学生相談員に相談したい	158	419	371	248	31	1227	2.4	2.5	2.6
困ったとき、悩んだときは精神科医・臨床心理士に相談したい	195	497	249	262	24	1227	2.5	2.3	2.4
授業に関すること、呼出し等、必要な情報の提供を問題なく受けている	236	742	184	37	28	1227	3.0	2.9	2.9

(5) 京都薬科大学の施設・設備

質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2016年度 平均点	2015年度 平均点	2014年度 平均点
施設・設備が充実している 講義室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	449	666	64	5	43	1227	3.3	3.2	3.2
施設・設備が充実している 実習室(プロジェクター、スクリーン、モニター等含む)	437	711	38	4	37	1227	3.3	3.3	3.2
施設・設備が充実している 自習室	293	637	206	51	40	1227	3.0	2.9	3.0
施設・設備が充実している 駐輪場	298	728	104	35	62	1227	3.1	3.0	3.0
施設・設備が充実している ロッカー室	294	714	147	29	43	1227	3.1	2.9	2.9
施設・設備が充実している 掲示板	312	744	110	22	39	1227	3.1	3.1	3.0
施設・設備が充実している 情報設備(パソコン、インターネット)	354	697	115	22	39	1227	3.2	3.1	3.1
研究室では安心して実験・実習に取り組める環境が整備されている	276	510	113	36	54	989	3.1	3.1	3.1
食堂施設が充実している(愛学館—メニュー—)	231	626	252	76	42	1227	2.9	2.7	2.9
食堂施設が充実している(愛学館—価格—)	238	682	209	56	42	1227	2.9	2.8	2.8
食堂施設が充実している(愛学館—利用環境—)	147	453	404	179	44	1227	2.5	2.4	2.4
食堂施設が充実している(躬行館—メニュー—)	165	574	331	106	51	1227	2.7	2.5	2.6
食堂施設が充実している(躬行館—価格—)	191	662	258	69	47	1227	2.8	2.7	2.7
食堂施設が充実している(躬行館—利用環境—)	147	508	367	154	51	1227	2.6	2.4	2.5
図書館施設が充実している(蔵書数、カウンターサービス含む)	336	698	130	17	46	1227	3.1	3.1	3.1
文具・書籍売場が充実している(品揃え、価格含む)	257	716	173	39	42	1227	3.0	3.0	3.0
憩いのスペースが充実している	170	607	327	74	49	1227	2.7	2.7	2.8
安全・衛生管理が行き届いている セキュリティー	388	710	75	12	42	1227	3.2	3.2	3.1
安全・衛生管理が行き届いている 構内の交通安全	391	742	44	7	43	1227	3.3	3.2	3.2
安全・衛生管理が行き届いている 清掃	550	609	25	4	39	1227	3.4	3.4	3.4

(6) 京都薬科大学の進路支援 (※は6年次生への質問項目)

質問内容	4. とても当てはまる	3. まあ当てはまる	2. あまり当てはまらない	1. 当てはまらない	無回答	計	2016年度 平均点	2015年度 平均点	2014年度 平均点
進路支援課へ進路に関する相談や質問をしたことがある	132	300	283	461	51	1227	2.1	2.0	1.9
進路支援課隣接の資料室を利用したことがある	117	319	253	487	51	1227	2.1	1.9	1.8
進路ガイダンス・学外講師によるセミナーの内容はわかりやすい	132	737	229	67	62	1227	2.8	2.7	-
進路ガイダンスの実施時期・回数は適当である	134	769	210	56	58	1227	2.8	2.8	2.8
学内公募型インターンシップ制度が充実している	102	695	296	58	76	1227	2.7	2.7	2.7
学内合同企業説明会(企業・病院・薬局・公務員)が充実している	165	777	179	40	66	1227	2.9	2.9	2.9
キャリア支援プログラム紹介冊子の内容は充実している。	150	770	196	37	74	1227	2.9	-	-
進路支援サービスが充実している(エントリーシート・履歴書等の添削) ※	62	146	33	6	16	263	3.1	3.1	3.5
進路支援サービスが充実している(模擬面接・グループディスカッション対策) ※	44	157	43	2	17	263	3.0	3.0	3.5
進路支援サービスが充実している(求人情報の提供) ※	43	169	39	3	9	263	3.0	2.9	3.3
進路支援サービスが充実している(その他相談に対する対応) ※	73	153	24	4	9	263	3.2	3.1	3.4
実務実習中の進路支援体制は充実している。 ※	50	152	38	12	11	263	3.0	-	-
進路希望ヒアリング(5年次)について(進路について考える有意義な機会となった) ※	57	125	45	7	29	263	3.0	3.0	-
進路希望ヒアリング(5年次)について(ヒアリング後、進路支援課を利用しやすくなった) ※	57	124	44	9	29	263	3.0	3.0	-

(7) 総合評価

回答	2016年度		2015年度		2014年度	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
1.まったく満足していない	2	0.2%	5	0.4%	2	0.5%
2	18	1.5%	12	1.1%	7	1.8%
3	27	2.2%	27	2.4%	11	2.8%
4	43	3.5%	36	3.2%	10	2.5%
5.どちらとも言えない	150	12.2%	134	11.9%	29	7.4%
6	176	14.3%	185	16.4%	56	14.2%
7	328	26.7%	314	27.9%	107	27.2%
8	371	30.2%	316	28.0%	132	33.5%
9	62	5.1%	66	5.9%	27	6.9%
10.非常に満足している	25	2.0%	15	1.3%	8	2.0%
無回答	25	2.0%	17	1.5%	5	1.3%
計	1227	100.0%	1127	100.0%	394	100.0%
平均点	6.8		6.8		6.9	

平均点：6.8

※2015年度調査時の平均点は6.8点

※2014年度調査時の平均点は6.9点

卒業生からのメッセージ

自分の根底にあるもの

まつい もとき
松井 元希



2015年 学部卒業
(公衆衛生学分野)
社会医療法人財団聖フランシスコ会
姫路聖マリア病院 薬剤部

私の学生時代を振り返ると、大きな声では言えませんが勉学に対し決して真面目であったとは言えません。ですが、3年次生以降の研究室での活動は真摯に取り組んできました。今の自分の職業とはあまり関係の無い分野での研究でしたが、得られたものは他の何にも代え難く、素晴らしい財産となりました。分野の先生方に厳しく指導して頂き身につけた物事を論理的に考える力やプレゼンテーション力、忍耐力などは職種に関係なく必要なものであったと感じます。

さて、唐突ではありますが、私は高校生の時に祖父を見送りました。病名は癌、末期の肺癌でした。抗癌剤治療も短期間のうちに奏功しなくなり、最終的にホスピスで見送ることになりました。治療中は苦しい表情もありましたが、ホスピスに入ると元気だった頃と変わらないような優しい顔をたくさん見せてくれました。亡くなる際も祖父らしい、人間らしい最期であったと記憶しています。その祖父を見送ったホスピス病棟があるのが、私の今の職場であ

る姫路聖マリア病院です(現在はホスピス病棟ではなく緩和ケア病棟という名です)。一人でも多くの人が祖父のようにその人らしく最期を迎えることが出来ればと思い、当時の私は当院で働くことを志しました。

そして今、念願の職場で働いているわけですが、実際の現状はまだまだ駆けだしの身であり、特に昨年1年間は基礎を学ぶことで精一杯でした。2年目を迎え外科・耳鼻科・眼科の混合病棟の担当を任せられ、専門性を高め多職種の方々と円滑なコミュニケーションがとれるようになってきました。また緩和ケアのみに捉われすぎず、もっと広い目でみるようにと上司に勧められ、化学療法のチームにも属し勉強させて頂いています。

職場で化学療法の文献検索などを行っていると、しみじみと研究室時代を思い出します。大学院に進学し、研究を続けようかと思ったことも何度もありました。しかし私の根底にあるのは、やはり前述の祖父の死から得た目標であり、それが揺らいでしまったら、きっと他の部分も揺らいでしまうだろう、後悔するだろうと考え、今の道を選択しました。この道を選択し、後悔はありません。

皆さんもこれから多くの分かれ道に出会うことと思います。その時に自分の根底にあるのは何か、本当にやりたいことは何なのか、そういったことを改めて考えて頂きたいと思います。またそういう場面に会った時、共に悩んだり助言をくれたりする人を大切にしてください。そういう存在は一生の宝物でしょう。あっという間の学生生活ではありますが、自分の根底作りや宝物さがしなど有意義な時間にしてください！

第101回薬剤師国家試験の結果について

Report

薬学教育研究センター長・教授 細井 信造

6年制薬学の5回目（第101回）の薬剤師国家試験が2016年（平成28年）2月27日、28日に実施されました。全体の難易度に関しましては前回（第100回）より幾分易化し、標準的な良問が数多く出題されました。とはいっても、引き続き一つ一つの事項について深く問われるだけではなく、思考力や応用力が求められています。易化したとはいえ、基礎事項を十分に理解していなければ、対応できません。基礎を疎かにせず、1年次から幅広く真面目に学修に取り組むことが資格を取得する上で重要であることは明らかです。このように、6年制薬剤師国家試験は、医療に軸足を置いた、実践力および問題解決能力が期待される6年制薬学に相応しい内容に変化しています。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男	女
出願者	16,658名	6,981名	9,677名
受験者	14,949名	6,123名	8,826名
合格者	11,488名	4,515名	6,973名
合格率	76.85%	73.74%	79.01%

(2) 男女別合格率②

区分	総数	男	女
6年制 新卒	出願者	9,625名	3,827名
	受験者	8,242名	3,187名
	合格者	7,108名	2,750名
	合格率	86.24%	86.21%
6年制 既卒	出願者	6,378名	2,749名
	受験者	6,185名	2,633名
	合格者	4,201名	1,676名
	合格率	67.92%	63.65%
その他	出願者	655名	405名
	受験者	522名	303名
	合格者	179名	89名
	合格率	34.29%	29.37%

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	712名	687名	580名	84.43%	474名	470名	431名	91.70%
公立	311名	303名	256名	84.49%	218名	216名	200名	92.59%
私立	15,634名	13,958名	10,652名	76.31%	8,933名	7,556名	6,477名	85.72%
本学	494名	448名	410名	91.52%	401名	363名	344名	94.77%

区分	6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	102名	98名	75名	76.53%	136名	119名	74名	62.18%
公立	58名	55名	39名	70.91%	35名	32名	17名	53.13%
私立	6,218名	6,032名	4,087名	67.76%	483名	370名	88名	23.78%
本学	76名	73名	63名	86.30%	17名	12名	3名	25.00%

さて、表1の通り今回の試験では、国公私併せて73大学の学生が受験しました。16,658名出願し受験者総数14,949名中、合格者は11,488名（合格率76.85%）でした。前回の総合合格率が63.17%でしたので、約13%合格率が上昇したことになります。また、前回（第100回）から出願者数も公表されるようになりました。つまり、出願者数と受験者数の差から卒業延期者（留年者）数が分かります。6年制新卒の全国合格率は86.24%と大幅に上昇しました（前回：72.65%）。また、6年制既卒者の合格率は67.92%と新卒に比べて低いですが、前回（53.12%）に比べて約15%上昇しています。これは、前回不合格となった既卒者が相当な危機意識を持って国家試験対策に取り組んだことや上述の通り問題が易化したことによると推察されます。本学では、新卒者363名が受験し、合格者は344名（合格率94.77%）、6年制既卒者は73名受験して合格者は63名（合格率86.30%）、4年制既卒者は12名受験して合格者は3名、総合合格率は91.52%（全国総計76.85%）でした。

第101回薬剤師国家試験において、難易度は第100回と同程度か幾分上昇するであろうと予想されていたが、蓋を開けてみれば標準的な問題が数多く出題されたこともあり、前回に比べて好結果となりました。本学は全国総合7位（73校中）でしたが、その要因として、**1）**危機意識を持って勉強に取り組んでいた、**2）**指定学生は講義後、さらにその日に学んだ内容に関する演習問題に主体的に取り組んでいた、**3）**学生に関する情報（出席状況、指定学生の課題取り組み状況、模擬試験の成績等）を、当センターと分野・センター間で共有できていた、**4）**当センターでの質問対応や個別の学修相談、また模擬試験の成績下位者に対する面談による現状の把握と意識改革を行うなどして総合的な学修フォローアップを行ったことなどが考えられます。

次に、今春卒業した本学学生の学業成績（専門必修講義科目の評定平均）と国家試験合格との関係を調べてみました。表2に示しますように、評定平均80点以上の卒業生は全員合格していますし、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつれて、卒業率および合格率も低下傾向にあるのはこれまでと同様です。このことは、日頃の学修が如何に大切かを物語っています。

表2. 評定平均*と合否との関係

評定平均	学生数	卒業者数	合格者	不合格者	卒業・合格率 (%)
95点以上	0	0	0	0	
90点以上95点未満	5	5	5	0	100
85点以上90点未満	27	27	27	0	100
80点以上85点未満	56	55	55	0	98.2
75点以上80点未満	93	90	88	2	93.5
70点以上75点未満	119	112	107	5	89.9
65点以上70点未満	97	72	60	12	61.9
60点以上65点未満	5	2	2	0	40

* 専門必修講義科目の平均点

本学6年制5期生に対しても、昨年度と同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データの協力を要請したところ、363名の受験者中346名（入力率95.3%）の協力があり、前回（90.4%）に比べて入力率の大幅な改善がみられました。表3に示しますように、総合正答率は75.7%（4期生72.33%）と昨年度に比べて約3%上昇しました。平均正答率30%未満の問題が18題あり、その内訳は必須問題で1題（前回0題）、薬学理論問題で9題（前回11題）、薬学実践問題で8題（前回9題）でした。特に、衛生は、一般問題で他の科目に比べて正答率が低かったことから、他の科目に比べて難易度が高かったと言えます。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分		必 須 問 題								問題区分		理 論 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計		科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90		問題数	30	20	15	15	15	10	10	105	
最低点	7	4	8	8	6	6	6	61		最低点	6	4	6	3	6	5	4	43	
平均点	13.1	7.9	14.1	12.4	12.3	9.9	8.8	78.5		平均点	16.3	12.0	11.8	9.9	10.7	8.9	69.6		
最高点	15	10	15	15	15	10	10	86		最高点	25	18	15	14	15	10	92		
平均正答率	87.2%	79.1%	94.3%	82.9%	82.0%	98.7%	88.1%	87.3%		平均正答率	54.5%	60.1%	78.4%	66.1%	71.2%	88.7%	66.3%		
学内全体（新卒）									87.10%	学内全体（新卒）									65.58%
全国（新卒）									85.18%	全国（新卒）									62.99%

問題区分		実 践 問 題									
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計		合計	総合計
問題数	14	10	10	10	10	10	84	148		148	343
最低点	4	1	2	3	5	4	45	80		80	194
平均点	9.0	5.6	8.2	7.6	7.9	8.4	64.9	111.6		111.6	259.7
最高点	13	9	10	10	10	10	77	130		130	303
平均正答率	64.1%	56.0%	81.9%	76.2%	78.9%	84.3%	77.2%	75.4%		75.4%	75.7%
学内全体（新卒）									74.01%	74.86%	
全国（新卒）									72.49%	72.91%	

<合格基準の変更について>

2015年9月に合格基準が、絶対基準から相対基準に改定されました。すなわち、これまで総合正答率65%がその基準となっていたものが、それが無くなり合格ラインが毎年変動する可能性があることを意味しています。

旧基準 以下のすべてを満たすこと。

1. 全問題への配点の65%を基本とし、問題の難易を補正して得た実際の総得点以上であること
2. 一般問題について、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の35%以上であること
3. 必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の50%以上であること

新基準 以下のすべてを満たすこと。

1. 問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること
2. 必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること

<第102回薬剤師国家試験に向けて>

次の国家試験の難易度が下がることは無いとみてよいでしょう。何れにせよ、6年制薬学に相応しい内容が出題され、真の実力が試される試験となるでしょう。まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭することが肝要です。基礎系科目、すなわち物理・化学・生物は他の科目の基礎となりますが、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。国家試験では内容が偏ることなく出題されますので、重要項目を中心に理解しながら勉強することが大切です。仮に過去問が出題されることがあっても、そのままの形で出題されることはありません。しかしながら過去問を無視することはできませんし、過去問のみでは合格できません。今、成績がよくないと感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。教科に関する質問についてはオフィスアワーを、また学修方法に関しては薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。

優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的として2010年度に創設しました給付型奨学金制度につきまして、今年度も、新入生については入学成績が特に優秀であった学部新入生10名及び大学院新入生3名、在學生については前年度の成績が優秀な2年次生から5年次生の各学年20名及び1～5年次の総合成績が特に優秀な6年次生21名の合計114名が奨学生に選ばれ、奨学金が給付されました。

また、表彰式が7月4日（月）に執り行われ、武田理事長から表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、ご父母（教育後援会会員）の皆様からのご寄附により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に紙面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学部新入生

井上 拓美
北川 幸太
高田 真優子
竹見 里穂
立花 咲葵
田原 侑奈
林 千菜
伴 美咲
藤井 日加里
山形 真由

大学院新入生

遠藤 京子
内藤 千尋
細川 晃平

学部在學生

2年次

安藤 実紗
伊藤 海
井上 裕美子
内海 慈乃
太田 千佳子
亀岡 紗綾
岸本 滝世
黒崎 楓夏
栗垣 衣里奈
小林 明梨
関 美晴
武貞 有芳
辻谷 優菜
中村 元
野村 実花
羽立 祐貴
林 結菜
原祐 幸汰
満田 春香
山本 結

3年次

池田 沙織
岩崎 年示
上野 花純
岡田 麻里奈
奥 大輝
川崎 那奈
北野 美鈴
木村 明德
久保田 知沙
近藤 悠斗
阪口 鈴菜
佐藤 未来
篠崎 莉穂
戸田 力也
長岡 亜佐実
萩野 真理
姫野 恵利那
南野 小百合
森田 萌子
吉澤 正人

4年次

大前 滯
岡山 雅美
金田 彩花
川田 奈実
河村 友惟
川本 直子
許 千晴
熊野 瑛巴
國府谷 彩香
小畑 久美
齋藤 菜月
柴田 かおり
杉山 絢香
田中 美咲
田中 佑果
中小路 千晶
橋本 彩
村上 穂波
森田 七海
山崎 麻美子

5年次

浅田 裕美子
足尾 真美
飯間 莉紗
梅原 祐奈
江見 結花
面川 杏
梶木 香里
河添 有宏
越野 裕貴
杉浦 真優
杉本 みなみ
高木 寛子
砥上 宏子
中猪 彩
西舩 文香
藤田 利沙
矢木 夕美子
矢崎 由希子
安田 有沙
山添 晶子

6年次

青木 沙織
上川 翼
宇田 歩未
小川 裕樹
川上 光
岸本 翔
幸前 里奈
小山 菜々子
佐分利 智子
竹林 真衣
時光 由紀
富永 南
中尾 佳那美
西 貴之
西本 明功
橋本 みさき
藤原 麻紀子
本城 綾子
松本 卓也
吉田 健吾
渡辺 純音



2016年度 給付型奨学生表彰者

奨学生となった感想や学習の方法について寄稿いただきましたので、ご紹介します。

だいき
■ 3年次生 奥 大輝（給付型奨学生）

日々の学業における成果が大学に認められ、今回給付型奨学金奨学生に選ばれたことを嬉しく思います。1年次では理系の基礎を学び、2年次では薬学の基礎を学び、3年次になって薬学の本格的な事について学ぶようになり、ようやく薬と大学での学習が結びついているように感じる事ができました。

私は毎日の授業を大切にし、とにかく授業中に理解

しようとしています。そして授業中に理解できなかったことを教科書、参考書、インターネット等の様々な情報ツールを利用して勉強するようにしています。わからなかったことも色々な視点から学習することで理解が深まると感じています。

また、大学での学習のみに留まらず生活の中に溢れる身近な薬に目を向け、今から薬剤師の卵としての自覚を持ち、日々精進したいと思います。

こやま
■ 6年次生 小山 菜々子（給付型奨学生）

この度は日々の努力が、給付型奨学金奨学生の受賞という一つの形として評価されたことを大変光栄に思います。私は決して勉強が好きというわけではありませんが、目の前にある自分のやるべきことを丁寧に少しずつやり遂げていこうとする姿勢を大切にしてきました。この姿勢が、今回の表彰につながったと思います。

膨大な試験範囲を勉強する際に私が心がけていることは、教科書（講義で使用してなくても）を繰り返し読むことです。諦めず何度も読み込んでいくと、講

義で先生方から教わった重要な部分の背景がわかり、その内容に興味を持つことができます。覚えなければならないという気持ちから少しでも解放されると、勉強に集中できると思います。

勉強に対する姿勢は、試験の結果だけでなく研究活動や実務実習などの実践的な課題に取り組む力にもつながっていると感じています。6年間の経験を生かし、理想の薬剤師像に近づくようこれからも精進していきたいと考えています。そして後輩の皆様には、周りに影響されず自分のペースで準備をして、試験を乗り越える力をつけてほしいと思います。

2016年度 京都薬科大学遠隔地出身学生給付型奨学生が決定されました

Report

学生課

本学では、遠隔地から本学に入学された学生の修学支援をより強化するため、2015年度に遠隔地出身学生給付型奨学金制度を創設しております。

遠隔地出身学生給付型奨学金制度は、近畿2府4県以外に自宅があり、下宿生活をしている1～4年次生（2015年度新入生より適用）に対し、面接等の選考を経て最大4年間奨学金を給付するものです。

今年度の遠隔地出身学生給付型奨学生は新入生10名、2年次生10名の計20名が選ばれ、7月12日（火）に執り行われた奨学生証書授与式において、武田理事長から奨学生証書が授与されました。



授与式の様子（写真中央：武田理事長）

奨学生となった感想や学習の方法について寄稿いただきましたので、ご紹介します。

■ 1年次生 野田 早紀（遠隔地出身奨学生）

私は今年4月大学への入学に伴い、京都での一人暮らしがスタートしました。期待と不安が交錯し、環境の変化を肌で感じている矢先、私の故郷である熊本で大きな地震が発生しました。幸い両親も無事でほとんど被害ありませんでしたが、県下では今現在も4,000人近くの方が避難生活を強いられ、25,000人の労働者が休業に追い込まれています。復興もまだまだ道半ばであり、1日も早い復興を祈るばかりです。そのような、気持ちが晴れない日々が続いていた時、あるニュースが届きました。それは大学から遠隔地出身給付型奨学

生の認定を受けたことです。この連絡を受けた時、嬉しさと同時に強い使命感に駆られました。

私は高校時代に、共に学ぶ仲間の大切さを感じてきました。大学でも互いに協力しながら切磋琢磨しつつ前に進んでいきたいと思っています。今後、学年が上がるにつれ、より専門性の高い講義や研究が増えてくると思います。そのような環境に身を置けることに感謝しながら同期・先輩・先生方と良い関係を築いていこうと考えています。そして何事においても自ら積極的に発信し、社会で活躍出来るような魅力ある京薬生を目指します。そして、次年度も奨学生に選ばれるように精進してまいります。

～ 6月のオープンキャンパス ～

6月5日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

受験生、付添者を合わせて467名（前年比：125.5%）の参加者がありました。躬行館T31講義室を会場とし、「学長挨拶」、「大学紹介」、「在學生の話」、「卒業生の話」の後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

「学長挨拶」では、後藤学長から「薬学という大空への飛翔」というテーマで、本学の目指すファーマシスト・サイエンティストの育成について話がありました。「大学紹介」では、安井入試広報委員長から、本学の概要説明がわかりやすく行われました。

「在學生の話」では、6年次生のタギシ和隆さんから研究活動を通じて成長できたことや病院・薬局実習での体験で得たことに基づいた話がありました。「卒業生の話」では、洛和会音羽病院薬剤部に勤務されている武田 彩様に病院での実際の薬剤師業務や本学で学んだことが社会に出てどう活かされているか等について話をいただきました。「在學生の話」、「卒業生の話」とともにたいへん好評でした。

「施設見学」では、愛学館の分野、図書館、臨床薬学教育研究センターの見学を行いました。昨年のオープンキャンパスから在學生の学生広報スタッフが施設見学の誘導や受付等を行い、参加者からは在學生と気軽に話ができたと反応は良好でした。躬行館食堂で実施した「相談会」には、139名の相談者があり、入学試験や学生生活、奨学金や就職などの相談に応じました。

～ 8月のオープンキャンパス ～

8月6日（土）・7日（日）の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

38度近くを記録した猛暑日にもかかわらず、1,861名（前年比：100.6%）の参加者がありました。薬学6年制開始以降最高の人数となり、今回初めて創立130周年記念館を会場として「学長挨拶」、「大学紹介」、「在學生の話」を実施し、その後、「体験実習」、「施設見学」、「相談会」を行いました。「在學生の話」は、6年次生の西本 明功さんと前島 敬一さんの2人に実施してもらい、両日とも好評でした。

参加者からは、大学紹介について「どのような人材の育成を目指しているかよく分かった」、在學生の話については、「実際の研究や大学生活がよく分かりとても参考になった」、体験実習については、「楽しんで体験することができ、受験意欲が高まった」などの声がたくさんありました。また、施設見学については、「色々な施設を見ることができ、実習の内容など具体的に知れた」などの声が多く聞かれました。

相談会は、躬行館食堂で実施し、両日合計323名の相談者があり、教育職員、事務職員、在學生が相談に応じました。

今後も、学生広報スタッフを前面に出し、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

■ 2016年6月、8月のオープンキャンパス参加人数

	受験生	付添者	合計
6月5日（日）	243名	224名	467名
昨年度	204名	168名	372名

	受験生	付添者	合計	昨年度
8月6日（土）午前	358名	301名	659名	727名
午後	143名	110名	253名	183名
小計	501名	411名	912名	910名
8月7日（日）午前	361名	278名	639名	384名
午後	181名	129名	310名	555名
小計	542名	407名	949名	939名
合計	1,043名	818名	1,861名	1,849名
昨年度	1,162名	687名	1,849名	

■ 2016年8月のオープンキャンパス集計結果（受験生・高校生）

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	インターネット（本学のホームページ）	397	65.5
2	高校の進路指導または資料	135	22.3
3	家族または親戚	91	15.0
4	オープンキャンパスのチラシ・DM	80	13.2
5	LINE@	50	8.3
6	先輩・友人・知人	43	7.1
7	予備校	14	2.3
8	新聞	4	0.7
9	受験雑誌など	3	0.5
10	その他	10	1.7



会場の様子

Q2 オープンキャンパスに参加された目的や動機は何ですか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎・食堂など施設・設備の確認	447	73.8
2	実験・研究などの施設・設備の確認	329	54.3
3	入試情報の確認	255	42.1
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	202	33.3
5	授業内容の確認	157	25.9
6	就職状況や進路指導の確認	154	25.4
7	研究内容の確認	146	24.1
8	薬剤師国家試験対策についての確認	135	22.3
9	薬学6年制の確認	129	21.3
10	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	126	20.8
11	病院・保険薬局実務実習の確認	79	13.0
12	クラブ・サークル活動などの確認	77	12.7
13	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	59	9.7
14	在学生の確認やコミュニケーション	49	8.1
15	学生相談・サポート体制の確認	26	4.3
16	教育職員及び事務職員の確認や相談	16	2.6
17	その他	15	2.5



研究室見学



体験実習



相談会

Q3 本学を受験する場合、どの方式で受験されますか？（複数回答）

No.	回答	件数	(全体)%
1	検討中	251	41.4
2	B方式（本学独自）	231	38.1
3	推薦入試	185	30.5
4	A方式（センター前期）	166	27.4
5	C方式（センター後期）	47	7.8

Q4 オープンキャンパスに参加されての感想はいかがでしたか？（全体）

No.	回答	件数	(全体)%
1	とても良かった	360	59.4
2	まあ良かった	181	29.8
3	あまり良くなかった	3	0.5
4	全く良くなかった	1	0.2
5	無回答	61	10.1
合計		606	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No.	回答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	251	41.4
2	少し受験意欲が高まった	269	44.4
3	変わらなかった	47	7.8
4	少し受験意欲が減退した	4	0.7
5	かなり受験意欲が減退した	2	0.3
6	無回答	33	5.4
合計		606	100.0

※有効回答アンケート数：606

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」コース
臨床薬学研究者養成セミナーが開催されました

Event

病態生理学分野 教授 芦原 英司

本セミナーは、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（文部科学省）主催により、臨床薬剤師が関わる臨床研究推進のための教育プログラムとして、以下のとおり開催されました。詳細は、本学ホームページ(http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project/cancer.html)にてご覧ください。

- 開催日時：2016年6月4日（土）13：50～
- 会 場：京都薬科大学 愛学ホール
- 参加者数：47名
- 【内訳】職員：17名、学部生：15名、大学院生：10名、その他5名



京都大学医学部附属病院
中川 俊作 助教



大塚製薬株式会社
芹生 卓 先生

第4回KPU-OHP臨床医薬カンファレンスが開催されました

Event

臨床薬学分野 教授 西口 工司

学術交流に関する協定締結先である洛和会音羽病院との第4回KPU-OHP臨床医薬カンファレンスが以下のとおり開催されました。

- 開催日時：2016年6月8日（水）18：30～20：15
- 会 場：京都薬科大学 愛学ホール
- テー マ：「環境と呼吸器疾患」
- 演 題
 1. 「大気汚染の現状と長距離輸送の影響」
京都薬科大学 公衆衛生学分野
教授 渡辺 徹志
 2. 「気管支喘息の診断と治療」
洛和会音羽病院 洛和会京都呼吸器センター
所長 長坂 行雄
- 参加者数：110名
- 【内訳】洛和会ヘルスケアシステム：43名
京都薬科大学：67名
（職員：42名／学部生・大学院生等：25名）



カンファレンスの様子



渡辺 徹志 教授



長坂 行雄 所長

News お知らせ

京都薬科大学 京薬論集刊行会主催 第14回「文化講演会」のお知らせ

日 時：11月5日（土）14:00～16:00
会 場：京都薬科大学 本校地 躬行館3階Q31講義室

講演者：上野 嘉夫氏（京都薬科大学 基礎科学系数学分野 教授）
演 題：理数の「小大連携」-事始めから事納めまで-

講演者：吉田 武氏（京都大学工学博士）
演 題：医工連携・創薬時代の初等教育 -力の総合学習：輪ゴムから遠隔手術まで-

※予約不要・聴講無料です。当日は「京薬祭」も開催中ですので、あわせてお楽しみください。

学生実習支援センター 助教 高尾 郁子

7月31日（日）本学実習室にて、市民組織『山科区「人づくり」ネットワーク』との協働で、理科実験講座「身近な夏の不思議体験2016イン山科」を開催しました。

地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で6回目を迎え、山科区の夏の恒例行事となっています。特に、京都市から2度の表彰（2015年度：京都はぐくみ憲章実践者表彰「育ち学ぶ施設」部門、2016年度：地域力アップ貢献事業者等表彰）を受けるなど地域連携行事としても高く評価されています。

当日は山科地区の児童120名が午前と午後の部に分かれ、身近な科学の不思議を体験。学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、『山科区「人づくり」ネットワーク』に参加している約30名の一般市民が地域ボランティアとして運営に携わりました。

今年のキーワードは植物の色素「アントシアニン」です。この色素は溶液のpHによって色が鮮やかに変化します。今回はこの性質を利用して2種類の実験を行いました。



白衣と安全メガネをつけて実験開始！

最初の実験「紫色の秘密」では、アントシアニンを多く含む紫いもから調製した紫いも液を使って、レモンや虫刺され外用薬等、身の周りにある溶液の性質と一緒に調べました。身近な溶液に紫いも液を入れた瞬間、色が鮮やかに変わる光景に「うわあ」と声があがり、その後も目を輝かせて熱心に実験に取り組む子供達の姿が印象的でした。



紫色の秘密

2番目の実験「電気の力で寒天に3D模様を描いてみよう」は、最初の実験の発展編です。アントシアニンの性質と食塩の電気分解を利用して、紫キャベツ液でつくった寒天に電気を流し、模様を描いてもらいました。青紫色の寒天が、電極のプラス極側では赤色に、マイナス極側では黄緑色に変化する様子に「科学の力で模様が描けた！面白い！」と会場は大いに盛り上がりました。



電気の力で寒天に3D模様を描いてみよう！

実験終了後「ハラハラ、ドキドキ、ワクワクするからとても楽しくて面白かった」、「もっと理科について知りたい」、「色々な道具を使えてよかった」等の感想が寄せられ、今年もたくさんの子供達に自然現象の不思議と理科実験の楽しさを満喫してもらえたと感じています。

また、この講座実施には地域ボランティアスタッフの協力も欠かせませんでした。忙しい合間を縫って事前リハーサルに参加して理解を深め、また準備から指導まで熱心に活動を支援してくださいました『山科区「人づくり」ネットワーク』の方々にこの場を借りて深く感謝いたします。



地域スタッフのサポートは欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の児童の理科教育の一助となるよう、市民組織と共にこの取り組みを継続していきたいと考えています。

なお、本講座は国立青年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を受けて実施したことを、最後に申し添えます。

京都市東部文化会館にて、生薬標本の一般公開をしました

Event

薬用植物園 園長 松田 久司

京都市東部文化会館（京都市山科区）の展示コーナー『ギャラリー エコム』にて、2016年5月27日（金）から6月26日（日）まで、生薬標本を一般公開しました。本学が、山科・醍醐地域の地域文化芸術活動活性化協議会に参画していることから、地域に開かれた大学を目指す取り組みの一環として、大学で所蔵している貴重な標本類を地域の皆様に公開しました。



熊本地震の被災者への支援について

Report

庶務課

本年4月に発生した熊本地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

京都薬科大学では、5月16日（金）から熊本地震の被災者への募金活動を行って参りました。6月17日（金）までに集まった本学職員・学生有志による募金45,269円を熊本地震の被災者に対する義援金として、7月7日（木）に日本赤十字社京都府支部に寄附いたしました。この義援金は、全額、日本赤十字社を通じて熊本地震で被災された方々への救済に活用されます。多くの皆様からのご協力に対して、心から御礼申し上げます。



贈呈式の様子

左：日本赤十字社京都府支部 山田事務局長
右：山下事務局長

第10回 自治会執行部主催 セ七夕企画

今年も7月初めから七夕当日にかけて、七夕企画を実施いたしました。愛学館入口に笹を設置して、愛学館に訪れた方々に願い事を書いていただく企画です。期間は短かったのですが、勉強や部活動、私生活のことなどについて書かれた短冊がたくさんあり、多くの方々に参加して頂き、嬉しく思います。

七夕企画実施にあたり協力して頂いた学生課、教育後援会の方々、並びに企画に参加して頂いた皆様、本当にありがとうございました。



京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、大学院の教育・研究関連のイベントを報告いたします。ぜひご覧ください。

－ 2016 －

■5月9日（月） 課程によらない博士学位論文口述発表開催

2名の発表者による口述発表が行われました。予定時間を超える活発な質疑応答が行われ、多数の大学生、学部生が聴講しました。

■5月17日（火） 第21回「とにかく英語を口にしよう」

“Surprises in Two Years” 鳥羽裕恵助教（臨床薬理学分野）
2年間のアメリカ・ミシシッピ大学メディカルセンターでの留学報告が行われ、教育職員、事務職員、大学院生、学部生など22名が参加し、活発な質疑応答が行われました。



第21回 鳥羽助教

■5月19日（木）～21日（土） 日本薬剤学会第31年会

薬剤学分野の薬科学専攻博士後期課程2年次生田中晶子さんと薬学専攻博士課程3年次生山下修吾さんがそれぞれ吸収、DDS部門で最優秀発表者賞を受賞しました。

■6月4日（土） 臨床薬学研究者養成セミナー

主催：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（文部科学省）
薬学専攻博士課程1年次生角陽子さん（病態生理学分野）が研究発表を行いました。
「レナリドミドの薬物動態学および薬力学的解析に基づく個別化投与設計を目指した臨床的基盤構築に関する研究」

■6月6日（月） 第22回「とにかく英語を口にしよう」

薬学専攻博士課程3年次生 内海大知さん（薬物治療学分野）
“国際学会での口述発表を終えて～in San Diego～”
米国消化器学会での口述発表の報告とサンディエゴでの滞在の様子が紹介されました。教育職員、大学院生、外国人留学生など13名が参加し、活発な質疑応答が行われました。



第22回 内海大知さん

■6月8日（水） 第4回KPU-OHP臨床医薬カンファレンス「環境と呼吸器疾患」

京都薬科大学と洛和会音羽病院との学術交流等に関する包括協定の一環として開催。
学部生・大学院生を含む110名が参加しました。

■6月23日（木） 課程による博士学位論文口述発表開催

薬学専攻博士課程1名、薬科学専攻博士後期課程1名の発表者による口述発表が行われました。予定時間を超える活発な質疑応答が行われ、多数の大学院生、学部生が聴講しました。



第4回KPU-OHP臨床医薬カンファレンス

■6月28日（火） 大学院説明会開催

第1部では、赤路研究科長から入試概要や教育内容等が説明されました。引き続き、第2部では「研究者を目指す女子学生のための説明会」として、伊藤由佳子講師（薬物動態学分野）と薬学専攻博士課程1年次生内藤千尋さん（薬剤学分野）の講演が行われました。

■7月14日（木） 公開セミナー開催

本学との協定校であるタイ・マヒドール大学の教員2名による講演が行われました。

■7月28日（木）

- ・独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (Pharmaceutical and Medical Devices Agency) 一日研修の開催
薬学専攻博士課程2年次生1名が参加しました。
- ・第23回「とにかく英語を口にしよう」

“Let's learn Singlish, lah!” 高田和幸准教授（病態生理学分野）

シンガポールでの留学報告が行われ、映像を使いながら、シンガポールの文化などがわかりやすく紹介されました。教育職員、事務職員、大学院生、学部生など30名以上が参加し、盛況でした。報告終了後も最後まで活発な質疑応答が行われました。



第23回 高田准教授

■8月22日（月） 大学院入学選考日（夏季募集）

■8月29日（月）

- ・総合薬学セミナー・公開セミナー合同開催 9:00～ A31講義室
- ・大学院入学選考合格発表（夏季募集）

日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加して

Event

おぼた

微生物・感染制御学分野 6年次生 小畑 志保

この度、8月6日・7日に梅田で開催された日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加させて頂きました。今回のテーマは「社会が私たち（薬剤師）に求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える～」で、全国71大学の71名の薬学生が参加しました。テーマに沿った議題を与えられ、様々な方法（KJ法、寸劇など）を用いて考え、議論し、発表することを2日間に渡って行いました。初対面の仲間と議論することは想像以上に面白く、気づきも多くありました。

「ニーズ」一つを考えるにしても新たな気づきがありました。社会が薬剤師に求めるニーズについて考えたときに、自分たちが考えている社会のニーズはニーズではなく薬剤師のやりたいことに過ぎないと指摘を受けた場面がありました。例えば、「セルフメディケーションの推進」、これは薬剤師がやりたいことで、社会のニーズとするなら「健康増進」という言葉の選択になります。この議論での大きな誤りは、薬剤師以外の立場から考えるべきニーズを薬剤師の立場から考えてしまったことでした。薬剤師以外の立場に立って考えているようで実際は立てていない、つまり社会の声をきちんと聞くことができていないということがわかりました。そういった意味でも傾聴スキルは重要で、薬剤師の仕事のすべては傾聴から始まるといっても過言ではないと感じました。

人それぞれにプロフェッショナリズムがあると思います。私自身今回のワークショップを通じて「利他主義」「専門職としての質の向上」「社会的責任」がプロフェッショナリズムの3要素であると考えました。

が、これら全ての根幹には「傾聴」という行動があるのではないかと思います。この考えに至ったのも、真剣に議論を交わし、時には厳しく時には優しく接してくれた仲間がいたからでした。

今の社会では薬剤師に対して風当たりが少し強く、薬剤師として働くことは不安でしたが、今回出会った仲間はその不安を感じさせないくらい薬剤師に対して熱い思いや希望を持っている人ばかりで、日本全国に同じ熱い思いを持って働く仲間がいると思ったら、すごく心強く、そして安心しました。

たった2日間という短い時間でしたが、色々な意見を聞けて、また私自身も色々な意見を言うことができて、とても刺激的でした。今回の経験を胸に、また今回出会った仲間になげないように将来薬剤師として頑張りたいと思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて下さった、大学の皆様、日本薬学会関係者の方々に心より感謝申し上げます。



グループ討論

■ 笑顔の効果

筆者が心理検査者として認知症の検査をとっていた頃、被検者さんから時々「お話楽しかった」「良くしてもらった」と言っていたことがあります。しかし認知症の疑いのある方にとって記憶力や認知機能の検査は、嫌とまではいかななくても、楽しいものではないはず。なのに、何故そう言ってくれたのでしょうか。

色々考えてみましたが、その一因は“笑顔”にあるのではないかと思います。一般的に認知症になると記憶力だけでなく、言葉を理解する能力や頭の中で物事を整理して考える能力も低下すると言われています。ただし、最近の研究によると、実は相手の笑顔を認識する力はすぐには失われず、さらに相手の表情に応じて感情を抱くシステムが働くことが分かっています。

相手の表情に応じて感情を抱く、これは高齢者に限らないでしょう。アムステルダム大学のスカイラー・ホーク氏らが行った実験によると、被験者が「優しい声」や「楽しい声」で話そうとするとその表情も和らぎ、「怒った声」だと表情も険しくなったそうです。そして、相手が不機嫌な表情で話していると聞き手も不機嫌な表情になり、逆に片方が笑顔で接すると、相手も笑顔になっていくそうです。また、米国心理学者のアルバート・メラビアン氏

は、好意や反感などの感情を伝えるコミュニケーションにおいて、①話の内容、②声・話し方（聴覚）、③外見・振る舞い（視覚）の三要素が矛盾している場合、最も大きな印象を与えるのは「外見・振る舞い(55%)」、続いて「声・話し方(38%)」、「話の内容(7%)」であったと報告しています。怒った顔に不機嫌な声で「ありがとう」と言っても、本当に感謝している気持ちは伝わりづらいと言えるでしょう。

人は言葉だけでなく、表情や声色、ジェスチャーや香りも用いてコミュニケーションをとっています。なかでも“笑顔”は心理的には「報酬」の意味をもち、相手との関係を良くするようです。また医療的には免疫システムのバランスを整える効果もあり、自分にとっても良い影響をもたらします。なぜあの人は他の人と話している時は笑顔なのに、自分が話しかけると真顔だったり険しい表情だったりするのだろう、と思ったことはありませんか。人は相手がどんな表情で話しているのかについては、目に見えるため気づきやすいのですが、案外自分の表情やジェスチャーについては気づきにくいようです。自分が笑顔になるだけでも、何かが変わるかもしれません。

(臨床心理士 小谷 典子)

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

●相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

●サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075-595-4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

2016年度 第22回 京都薬科大学 公開講座 食の安全・安心講習会と薬用植物園の見学会 概要

*本年度の公開講座は、山科区制40周年記念事業とコラボレーションして開催いたします。

- 主 催：京都薬科大学 山科区役所
 - 日 時：2016年10月22日（土）13：00～16：30（受付開始12：00～）
 - 場 所：京都薬科大学
 - 受講料：無料
 - ①講 演：躬行館 3階 T31講義室（13：00～14：40）
 - 1. 「働く人と共に歩む、安心・安全な職場づくり」
田中 滋之（株式会社ロマンライフ マールブランシュ事業部 製造部部長）
 - 2. 「食中毒の予防はちょっとした知識から」 後藤 直正（京都薬科大学長）
 - ②見 学：薬用植物園御陵園（先着100名）・・・ 薬草の見学・効能説明など
 - ・集合 15：00 躬行館3階 T31講義室
 - ・見学 16：30まで
- ※園内見学の際は、足元が悪くなっております。
ヒール、パンプス等は危険ですので、スニーカー等の運動靴でお越しください。

2016年度 実務支援セミナー 概要

- 日 時：2017年2月26日（日）12：00～16：30（受付開始11：00～開始10分前までにおすませください）
- 場 所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 2階 R23演習室
- テーマ：演習 「注射薬の無菌混合調製」
- 講 師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 特命教授 高山 明 先生
- 認定単位：1日／計2単位 G01（共催：公益財団法人 日本薬剤師研修センター）
（計270分のうち、120分×2コマ（計240分）計2単位の認定単位付与）
- 定 員：20名
- 受 講 料：5,000円（テキスト代含む）
- そ の 他：お支払いされました受講料は、欠席またはキャンセルされた場合でも、返金できませんので
ご了承ください。欠席された方には、後日テキストを送付いたします。
- 申込方法等

2016年11月1日（火）～12月11日（日）までの申込受付期間で、①または②の方法でお申込みください。

 - ① 右記URLアドレス「WEB申込フォーム」より申込み <http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>
 - ② 電話にてお申込み：TEL 075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10：00～16：00）

■ お問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター

- ・TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10：00～16：00）
- ・FAX：075-595-4683（24時間受付）
- ・E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

*詳細はホームページ（<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>）をご参照ください。

*プログラム内容等は変更される場合があります。

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。経験の有無を問わず様々な学生が集まり、定期演奏会を大きな目標に日々練習に取り組んでいます。今年も第44回定期演奏会が11月26日（土）14時～京都府長岡京記念文化会館にてドボルジャークの交響曲第9番『新世界より』をメインに3曲演奏させていただきます。とても充実したラインナップなので練習も大変ですが、日々曲が少しずつ形になっていくのを感じ、11月までにどこまで表現することができるか今から楽しみです。また京薬祭ではジブリやディズニー等馴染みのある音楽で皆様と盛り上がりたいと考えています♪双方とも心を込めて演奏させていただきますので是非聴きにいらしてください。

卓球部

活動実績

- 2016年 第76回西日本医歯薬学生卓球大会
女子 ダブルス優勝
- 2015年 第58回全日本薬学生卓球大会
女子 団体優勝／シングルス準優勝／
ダブルス第3位
- 2015年 第69回関西薬学生卓球大会
女子 団体優勝／シングルスベスト4
男子 シングルスベスト8
- 2012年 全国薬学生大会
女子 シングルスベスト8
- 2012年 関西薬学生大会
男子 団体戦3位／シングルスベスト8／
ダブルスベスト8
女子 シングルスベスト4、ベスト8／
ダブルス2位

今後の予定

- 2016年 11月 秋の四薬卓球大会
- 2017年 3月 西日本医歯薬学生卓球大会

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。私達マンドリン部は、2016年10月10日に行われる定期演奏会に向けて練習を重ねているところです。春からの成長が目覚ましい、頼もしい1年次生と共に8月は福井県にて合宿を行いました。部員それぞれが考えながら部活を作り上げていっています。また、先輩、後輩両者が相互に補いあったり、刺激しあいながらも和気あいあいとした雰囲気の中で日々取り組んでいます。11月には京薬祭にてコンサート、模擬店を出店する予定です。ぜひマンドリンの心地よい音色を聴きにいらして下さい。

剣道部

私たち剣道部は、主に医歯薬、関西薬学生剣道大会や全国薬学生剣道大会、京滋大会、関西大会などに出場している。

私たちは、薬学生の大会だけでなく、他大学の体育会剣道部が出場している関西大会で結果が残せるように日々稽古に励んでいる。

稽古内容に関しては、自分たちの試合内容を見直し、試行錯誤を繰り返して自分たちに足りなかった部分を中心に練習するようにしている。練習の成果もでており、他大学の体育会剣道部が出場する京滋大会では、良い結果を出すことができた。

これからも良い試合の結果を出せるように日々稽古に励んでいくとともに礼儀や協調性を大切にしていきたい。

News お知らせ

■2016年度学位記授与式（前期）及び2016年度大学院博士・博士後期課程秋季入学式

9月30日（金）午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2016年度 学位記授与式（前期）が執り行なわれ、後藤学長から、課程博士2名、論文博士2名に学位記（博士（薬学））が授与されました。

また、学位記授与式に先立ち、本年度後期より薬学専攻博士課程及び薬科学専攻博士後期課程の学生を迎えることとなり、同日3時より秋季入学式が執り行われました。

News 人事異動

採用

生命薬科学系微生物・感染制御学分野
教授 小田 真隆

事務局企画・広報課 事務員 太田 亮史

（契約職員）
薬用植物園 契約職員 鈴木 章友
（以上 2016. 10. 1付）

兼務

事務局国際交流推進室 事務員 太田 亮史
（事務局企画・広報課）
（2016. 10. 1付）

■ The 9th CSP-KSP-JSP Joint Symposium on Pharmacognosy & 2016 Annual Conference of Committee of Chinese Traditional and Natural Medicines, Chinese Pharmaceutical AssociationにおいてTravel Grant Awardを受賞

2016年5月29～30日に中国・上海で開催されたThe 9th CSP-KSP-JSP Joint Symposium on Pharmacognosy & 2016 Annual Conference of Committee of Chinese Traditional and Natural Medicines, Chinese Pharmaceutical Associationにおいて、生薬学分野の博士課程2年次生の深谷匡さんが口頭発表を行い、Travel Grant Awardを受賞致しました。なお、本シンポジウムには、日本生薬学会小域海外派遣助成に選ばれ参加したものです。

演題: Research on Alkaloids with Anti-melanogenesis Effects from the Leaves of *Murraya koenigii*

演者: 深谷 匡¹、中村 誠宏¹、中嶋 聡^{1,2}、尾田 好美^{1,2}、吉川 雅之¹、
松田 久司¹ (1 京都薬科大学、2 エヌ・ティー・エイチ 研)



■ 第19回日本医薬品情報学会 総会・学術大会において学生優秀ポスター賞を受賞

2016年6月4日(土)・5日(日)に昭和薬科大学で開催された「第19回日本医薬品情報学会 総会・学術大会」において、臨床薬学教育研究センターの6年次生の柴田渉さんが学生優秀ポスター賞を受賞しました。

演題: 医薬品副作用データベースを用いたレボフロキサシンによる低血糖発現に関する解析

演者: 柴田 渉、河野 修治、津島 己幸、橋詰 勉、矢野 義孝



■ The 1st Workshop for Japan-Korea Young Scientists on PharmaceuticalsにおいてPoster Presentation Awardを受賞

2016年6月24日・25日に京都で開催されたThe 1st Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceuticalsにおいて、薬剤学分野の博士後期課程2年の田中晶子さんが、Poster Presentation Awardを受賞しました。英語による2分間の発表、3分間の質疑応答及び研究内容が評価されました。

演題: Transnasal delivery of peptide agonist specific to neuromedin U receptor 2 to the brain for the treatment of obesity

演者: Akiko Tanaka, Yuki Takemura, Koji Taketa¹, Kentaro Takayama¹,
Yoshio Hayashi¹, Kosuke Kusamori, Hidemasa Katsumi,
Toshiyasu Sakane, Akira Yamamoto

(1 Department of Medicinal Chemistry, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences)



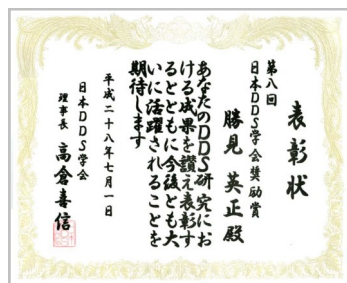
■ 第8回日本DDS学会奨励賞を受賞

薬剤学分野の勝見英正准教授が「第8回日本DDS学会奨励賞」を受賞しました。本受賞は骨を標的とした薬物送達システム(DDS)開発に関する一連の研究が評価されたものです。

2016年6月30～7月1日に静岡で開催された第32回DDS学会学術集会において表彰式および受賞講演が行われました。

演題: 骨を標的とした革新的DDS開発と疾患治療への応用

演者: 勝見 英正

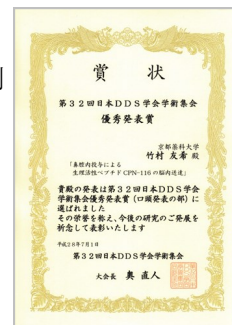


■ 第32回日本DDS学会学術集会において優秀発表賞を受賞

2016年6月30日・7月1日に静岡で開催された第32回日本DDS学会学術集会において、薬剤学分野6年次生の竹村友希さんが優秀発表賞を受賞しました。

演題：鼻腔内投与による生理活性ペプチドCPN-116の脳内送達

演者：竹村 友希、田中 晶子、武田 康嗣¹、高山 健太郎¹、古林 呂之²、草森 浩輔、勝見 英正、坂根 稔康、林 良雄¹、山本 昌
(1 東京薬科大学、2 就実大学)



■ 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2016において

Young Investigator Awardを受賞

2016年8月24日に仙台で開催された「次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2016」において、病態生理学分野博士課程2年次生の河西翔平さんがYoung Investigator Awardを受賞しました。

演題：アルツハイマー病治療に向けた骨髄由来細胞のミクログリア様細胞への分化誘導と機能解析

演者：河西 翔平、高田 和幸、射手園 将真、長山 紘子、溝口 浩晃、黒田 絵莉子、戸田 侑紀、芦原 英司

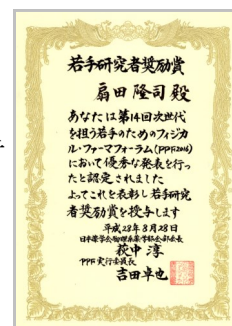


■ 第14回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラムにおいて若手研究者奨励賞を受賞

2016年8月27日・28日に大阪で開催された第14回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2016) において、薬品物理化学分野の扇田隆司助教が若手研究者奨励賞を受賞しました。

演題：細菌Ⅲ型分泌装置のエフェクター輸送機構解明のための回転-分泌関連の検討

演者：扇田 隆司、林 直樹、福田 昂平、初山 京子、小暮 健太郎¹、後藤 直正、斎藤 博幸 (1 徳島大学大学院医歯薬学研究部)



私の薦める、私の一冊



京都薬科大学長 後藤 直正

里見清一 著『医師の一分』
新潮社 (2014)

侍が命をかけて守らねばならない名誉や面目を小説化した「武士の一分」(藤沢周平著)のパロディタイトル本で、著者は医師が命をかけて守るべき名誉や面目を書いている。

時刻表、運行計画ができて、すべてがうまく行くというのはありえない。国鉄民営化は新時代を生きるために、旧弊の打破、そしてパラダイムシフトをもたらした。一方で、失ったものは少なくない。インドの鉄道の遅延を笑った古い小唄に、「数時間遅れるぐらい平気な鉄道に、なぜ時刻表があるのか?」、応えて曰く「時刻表がなければ、どれだけ遅れたのか分からない」というのがあった。現在のJRでは笑えない。この原因は、経済的競争力向上のための駅員削減、つまり経済的効率に起因するような気がする。さて、このような変革を是とするか、非とするか。是としながらも、時折、振り返るこ

とが必要です。世の変化はスパイラルの階段。つまり、かつての問題・課題は、上昇(変革)によって量的には変わったとしても、上から見れば、輪廻転生、質的には変わらないのではないのでしょうか。

医療も変わった。患者・家族の意思を問うことなく、治療方針を決定する常識を過去のことにして、患者に、家族に、決定権を与え、医師が決断を待つ医療へと変わった。しかし、方法・制度は、すべてに対して、「幸」とは限らない。著者は、かつての反省のもとに構築された現代の医療社会での不文律、習慣的建前、良識の流れに逆らい、明瞭な声で疑問を呈している。私は著者の考えがすべてに正しいとは思っていない。常識、当たり前のことを、偏狭な個人的、職業人的感情ではなく、幅広い教養をもとにした理性で問いかける著者の「問題発見」に接してほしい。またエピソードを読んでほしいことから本書を紹介した。

専門性の高い薬学や医学に長けても、社会で別の波にさらされる。薬学だけに守られた社会などなく、世を渡って行くには否応なく薬学以外の教養も要求される。

<平成28年度京薬会支部総会の開催状況>

福井支部(6/26)、北海道支部(7/3)、和歌山支部(7/10)、京都支部(9/10)、岡山支部(9/10)、富山支部(9/25)がすでに開催され、今後は滋賀支部(11/6)、大阪支部(11/13)、奈良支部(11/20)、愛知支部(12/4)の各支部総会開催が予定されています。京薬会より会長、副会長をはじめとする幹事、また大学より理事長、学長にもご参加いただき、各地で大学と地域の交流を深めております。

<京薬祭とホームカミングデー>

今年度も京薬祭に合わせて11月6日(日)に、今年で第6回となる京薬会主催の「ホームカミングデー」を開催します。ホームカミングデーは年々参加者が増え、昨年も多くの卒業生の皆さんのご参加をいただきました。

本年は後藤新学長による大学の近況の紹介に加

え、近畿大学東洋医学研究所講師、日置智津子先生に「現代東洋医学(漢方)の理論・期待できる薬剤師による実働と展開」と題して講演いただきます。このほか、米国ボストンMCPHS大学へのサマープログラムに参加した学部学生による留学報告会も予定しております。ぜひお誘いあわせの上、大学へ里帰りいただき新校舎を散策し、懐かしい先生や同窓生とご歓談ください。

また、当日は京薬祭期間中ですので、現役学生との交流など楽しいホームカミングデーにしたいと考えています。そのために先着100名の卒業生の方に学園祭模擬店で使用できる1,000円分のチケットを差し上げますので多数の皆様のご来場・ご参加をお待ちしております。

詳しくは京薬会誌8月号、ならびに京薬会ホームページをご覧ください。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附(10万円以上)を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2016年6月～2016年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

<卒業生・同期会等(卒業年次順)>

石田 成弘(昭17)	澤田 乙吉(昭36)	曾我 玲子(昭41)	佐伯 順一(昭47)	平等久仁子(平26)
石黒 道彦(昭19)	由井蘭洋司(昭37)	大西和嘉子(昭43)	内藤 純子(昭52)	大日本住友製薬
林 忠男(昭28)	岡本 昇(昭40)	稲垣 美幸(昭45)	平野 隆(昭55)	みのりの集い
福井美代子(昭31)	本庄美代子(昭40)	匿名希望(昭45)	小林 三紀(昭58)	京薬会

<京薬四二会卒業50周年記念募金(昭和42年卒業生)(五十音順)>

赤神 禮子	金澤 重子	武田 禮二	藤井 泰育	守安 洋子
赤坂由利子	喜多 壽子	田中 正勝	細野 久子	森脇 順子
伊藤 和子	木畑 暁代	谷口 睦子	松田 知久	山口 邦子
糸瀬 秀子	小鍛冶佳子	戸田寿栄子	松村 眞良	山口 博行
大原 松雄	小島 憲子	南里 弘	松村 まほ	弓場 康之
大見 博志	榊原佳恵子	南里 佳子	丸茂 晃	吉迫 和子
岡部 圭子	嶋瀬 棟正	西村 卓嗣	宮秋 昭	吉田 泰子
岡本 純子	島本美予子	原田万利子	三宅 良子	
片岡 紘子	清水 稔章	日夏眞佐美	宮嶋 淳子	
勝馬 武	城井 隆夫	平越 孝平	森川 加也	
葛城 ユミ	高畑 節子	福永 昌子	森川 信子	

<企業・団体・一般>

キノンビクス株式会社

<法人役員・評議員・職員(五十音順)>

大原 松雄(理事) 佐原 和美(係長) 高野 江里(課長) 富永 重夫(職員) 山下 馨(局長)

(2016年8月31日現在)



KPU NEWS No. 187

2016年10月発行/編集: KPU NEWS編集委員会

発行: 京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。